



協力：ホビージャパン



地球連邦軍
宇宙用攻撃型試作モビルスーツ
RX-78GP03S「ガンダム試作3号機 ステイメン」
1/100 スケール
マスターグレードモデル

GUNDAM GPO3S

E.F.S.F. ATTACK USE PROTOTYPE MOBILE SUIT



MOBILE SUIT
RX-78GP03S

STAMEN

E.F.S.F. ATTACK USE
PROTOTYPE MOBILE SUIT

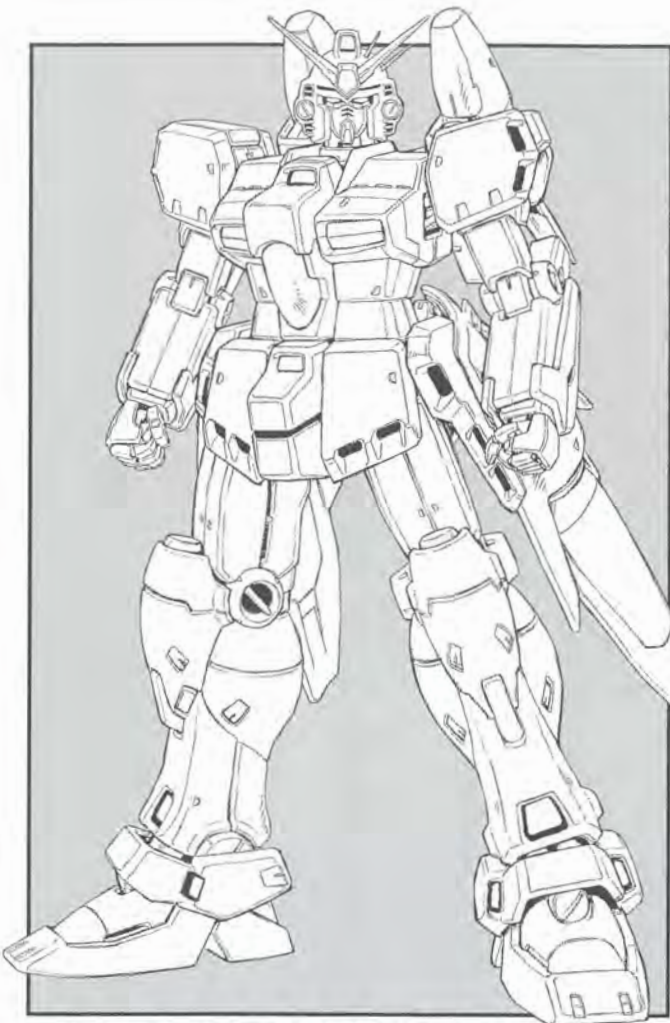


地球連邦軍
宇宙用攻撃型試作モビルスーツ
RX-78GP03S「ガンダム試作3号機 ステイメン」
1/100 スケール
マスターグレードモデル

BANDAI 2001 MADE IN JAPAN



0101788

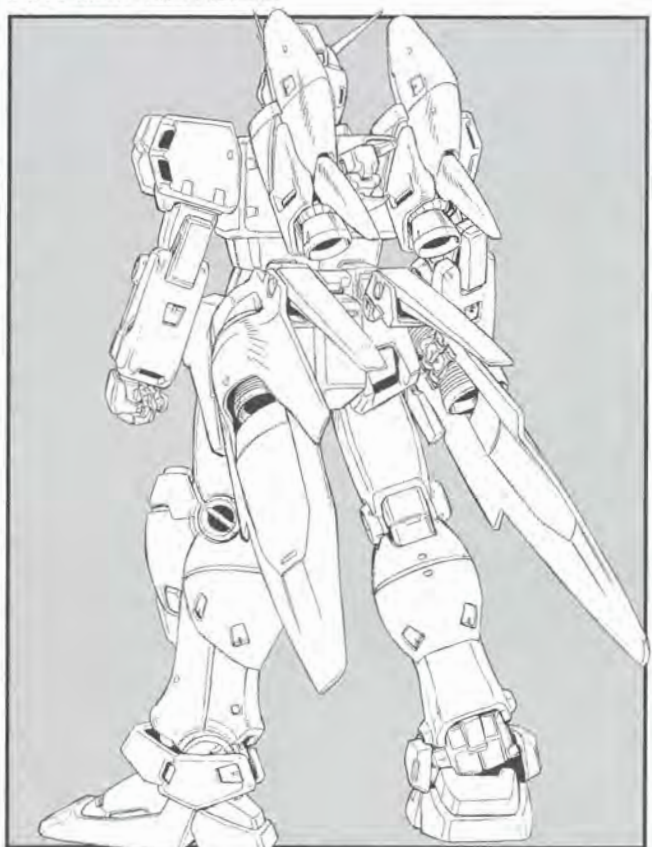


RX-78GP03S STAMEN

ガンダム試作3号機は、アナハイム・エレクトロニクス(以下、AE)が「ガンダム開発計画」に基づいて建造していたガンダムタイプの3体目の機体で、MSユニットのステイメンと、MA状のアームドベース・オーキスによって構成される巨大な機動兵器である。一年戦争当時、公軍製MAの脅威を目的に作り出した連邦軍は、それに対抗し得る兵器開発の必要性を痛感していた。「ガンダム開発計画」の目標は、「最強の機動兵器」を生み出すことであり、当時の戦略、戦術で考え得るあらゆる兵器の要素を貪欲にとりこむことで「史上最強のMS」を作り出そうとしていたのである。これは既存の「ガンダムとしてのスペック」と「新機軸の機能」を含む「素案の全て」を盛り込むことを意味している。試作1号機ゼフィランサスは、純粋なMS単体としての機動力、運動性能を追及した機体で、試作2号機サイサリスは最強の機動兵器に最強の戦略兵器を組み込んだ機体であった。そして試作3号機デンドロビウムは、MSとMAの性能を併せ持つ機体として作られた。ここでいう「MS」とは言うまでもなく「ガンダム」のことであり、基本的にはその仕様全てを含むものである。ラビアンローズでルセットからGPO3のデータを見せられたコウが「これが全部……」と驚嘆したのも無理からぬ話だった。そこには、単機としては未曾有の戦闘単位であるアームドベース・オーキスが擁する全ての兵器、武装、システムから、最小戦闘単位を「コア・ファイター」とする「Pスペック」のデータまでも記載されていたからである。その後、3号機強奪のためデッキで実機を見たコウが、データを知っているにも関わらず「コア・ブロック・システムじゃない!?!」と驚いたのも当然で、そこにあったのは、ナカハ・ナカト中佐らにデータのほとんどを搾取されていた「全天周モニター」スペックの機体だったからである。ちなみに、GPシリーズには「花」をモチーフとしたコードネームが与えられており、3号機のコードネーム「デンドロビウム(デンドロ=樹木、ビウム=着生する)」とは、ラン科セッコウ属の多年草で、1500種もの派生種を擁する。花言葉は「わがままな美女」。3号機のMSユニットが、特にステイメン=雄しべと称されているのは、3号機全体をひとつの「花」に見立てた場合の状態を指しているのだろう。

試作3号機は、出撃後も武器の換装が可能で、遠距離戦闘から近距離戦闘まで多様な戦況に対応可能である。その意味で、巨大な武器庫を備えたMSと言うこともできる。MSの特徴が、高機動性と多様な戦闘、作業に従事できる汎用性だとすれば、自前で武器の携帯と換装ができるという発想は、その特性を最大限先鋭化したものだと言えるだろう。加えてアームドベース・オーキス自体、莫大なプロペラントによる高機動性と長大なビーム砲、巨大なクローアームなどの強力な武装とフィールド発生器による堅固な防御力を装備するMAそのものと言っても過言ではない。3号機を「宇宙空間の拠点防衛用」の機体として見た場合、その要求は十二分に満たされていると言えるだろう。さらに、パイロットのサバイビリティが、最終的な「防衛」に含まれると考えれば、コア・ブロック・システムの採用が検討されたのも当然であり、実際、フォン・ブラウン工場におけるロールアウト(0083年10月4日)からラビアンローズでのトライアル開始(同年10月28日)までの期間は、調整に手間取ったとしてもかきすぎであり、逆にコア・ファイターが実際に作られたのだとする説の根拠のひとつになっている。その一方で、3号機の開発に関しては当初から難航が予想されており、特にオーキスと連動した場合のインターフェイスが懸念のひとつであったとされている。3号機は、パイロットが単独で制御するには過剰な質量を持つ機体である。例えば、旧公軍製の大型MAは、複数のパイロット、ナビゲーターやガンナーが連座していたのが普通だったし、そうでない場合はサイコミュによる補助がある場合がほとんどであった。そこで、一年戦争末期に「NT用」のインターフェイスとして開発された全天周モニターを採用したコクピットブロックが並行して開発されたのである。コア・ブロック・システムと全天周コクピットは全く異なる構造を持つが、球形コクピット自体は2号機の部材を援用できたし、1号機用のコア・ファイターⅡの資材も流用できたため、胸部と腹部の最終装甲にはほとんど手を加えることなく制御ブロックが換装可能であったようだ。但し、実際にステイメン用のコア・ファイターが存在したかどうかは不明である。無論、どちらの仕様でもステイメン単体による格闘、近接戦闘などにスペック上の差異はほとんどなく、オーキスとのドッキングなどを考えて設置されたテールバンダーなどが、四肢との運動によるAMBAC効果を含む運動性能や機動力の向上をもたらしており、MSとしての性能も非常に優れている。後に、グリプス戦争時の激烈なMS開発競争の渦中で、バンダーやスタビライザーの技術が多く採用されていることから、ステイメンの持つ先見性は破格のものであったとすることができる。実質的にこの機体は、コア・ブロック・システムの有無に関わらず、数年後に開発されるMS群に比肩し得る性能を持っていたと言っても過言ではない。

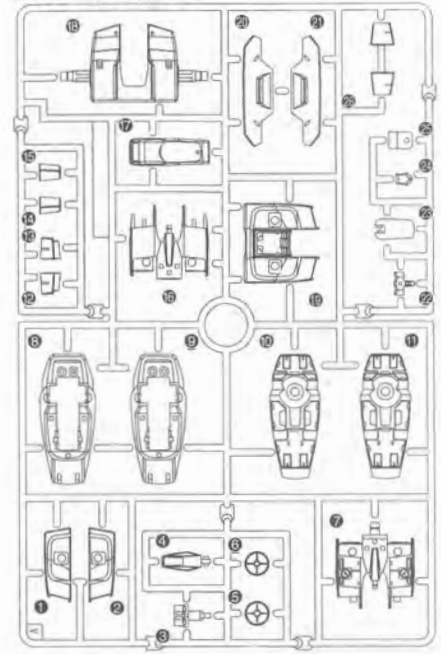
(「Pスペック」とは、prototype=プロトタイプ、あるいはpistol=めしべ、またはpollen=花粉、を指すと言われているが、資料が抹消されている上、開発担当者が死亡しているため、詳細は不明である)



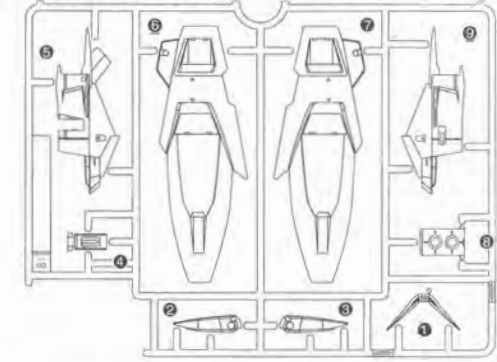
Conceptual illustration : Katoki-Hajime

パーツリスト

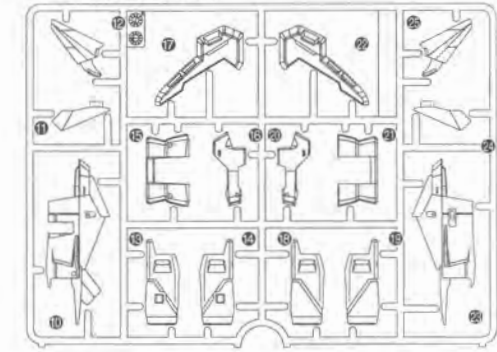
Aパーツ
(スチロール樹脂 : PS)



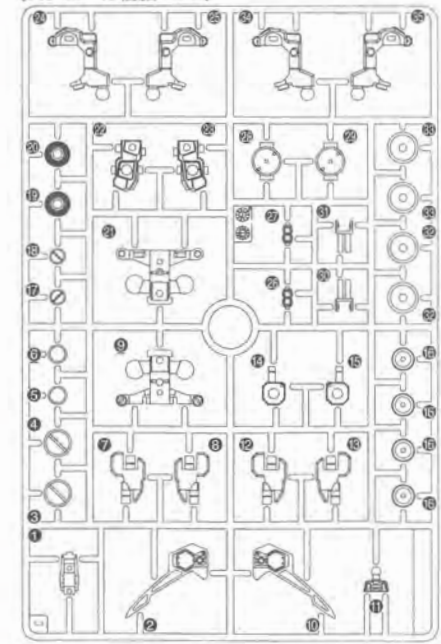
B1パーツ
(スチロール樹脂 : PS)



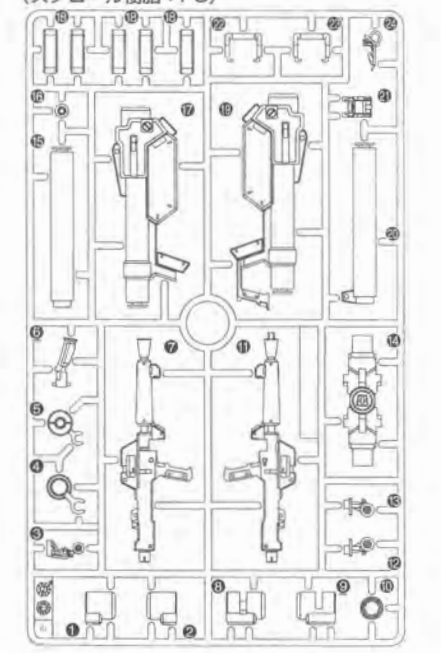
B2パーツ
(スチロール樹脂 : PS)



Cパーツ
(スチロール樹脂 : PS)



Dパーツ
(スチロール樹脂 : PS)



Parts name of
RX-78GP03S STAMEN

Parts List

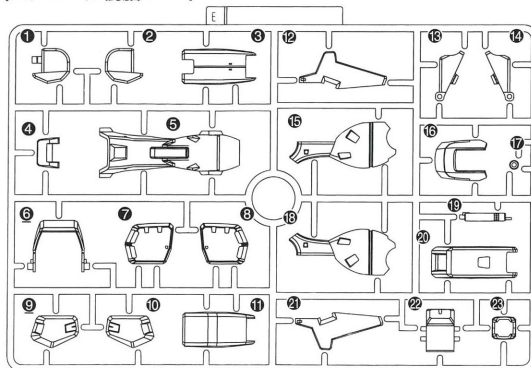
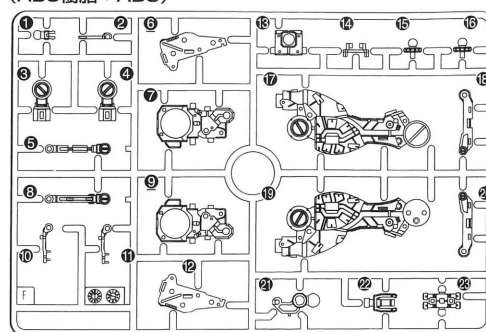
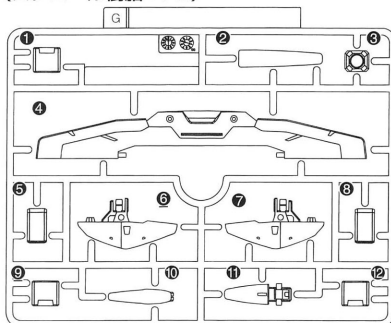
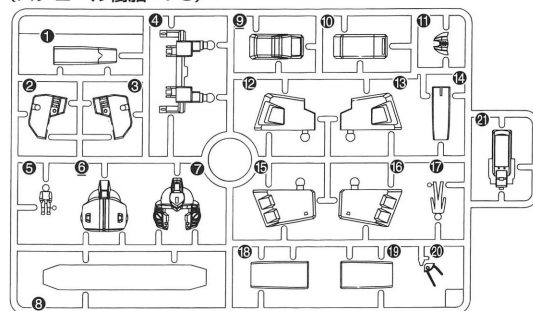
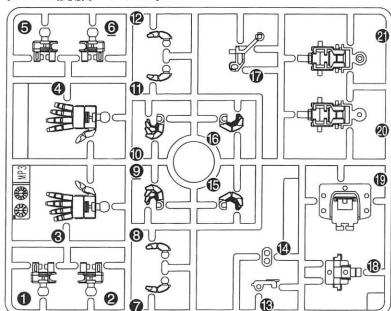
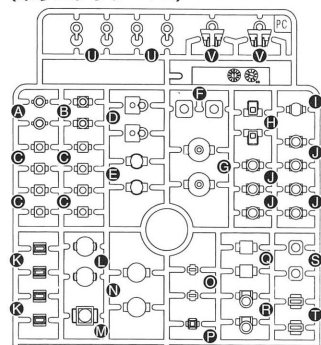
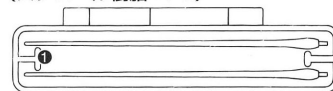
Head Unit

Arm &
Leg Unit

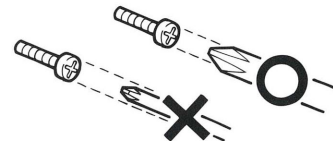
Body Unit

Core Fighter &
Weapons

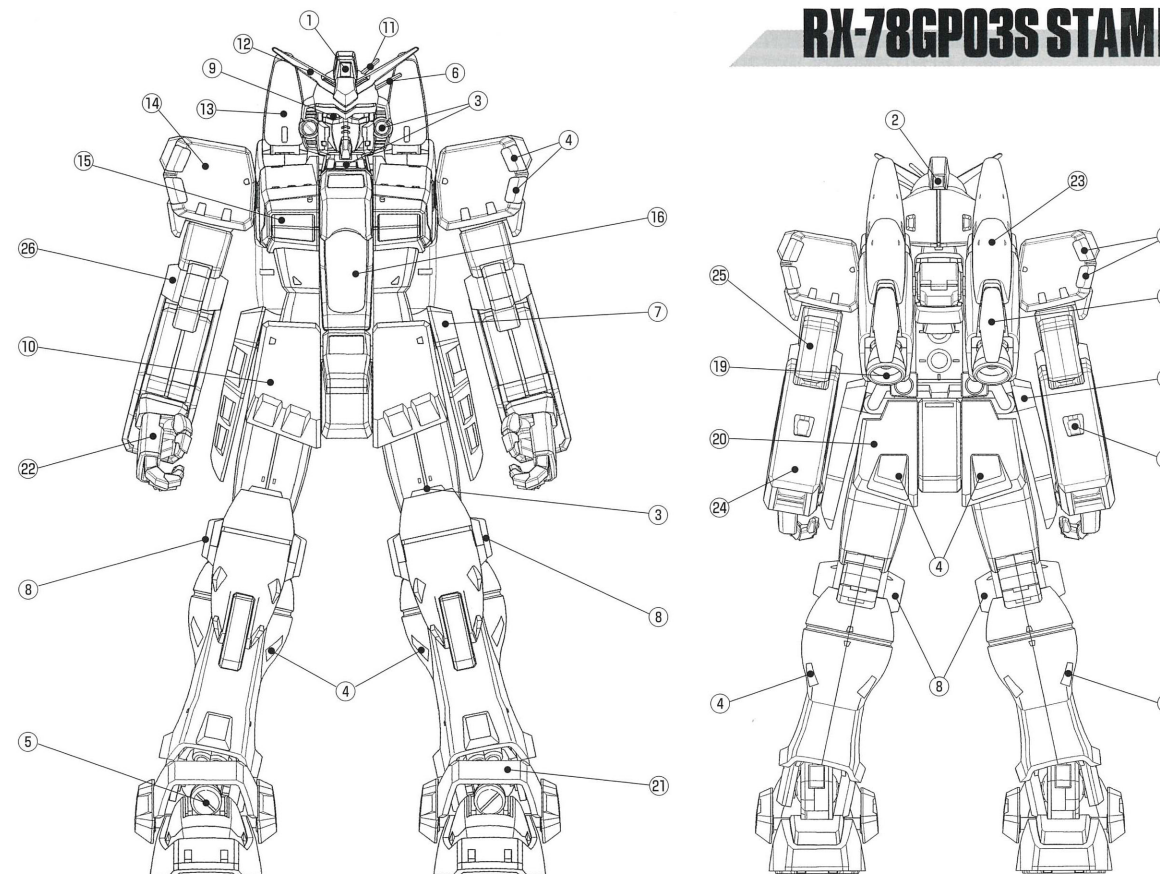
Final Assemble

Eパーツ (×2)
(スチロール樹脂: PS)Fパーツ (×2)
(ABS樹脂: ABS)Gパーツ (×2)
(スチロール樹脂: PS)Hパーツ
(スチロール樹脂: PS)MP3パーツ
(ABS樹脂: ABS)PCパーツ
(ポリエチレン: PE)SB1パーツ
(スチロール樹脂: PS)

カラーシール.....1枚
マーキングシール...1枚
ガンダムデカル...1枚
ビス.....2個

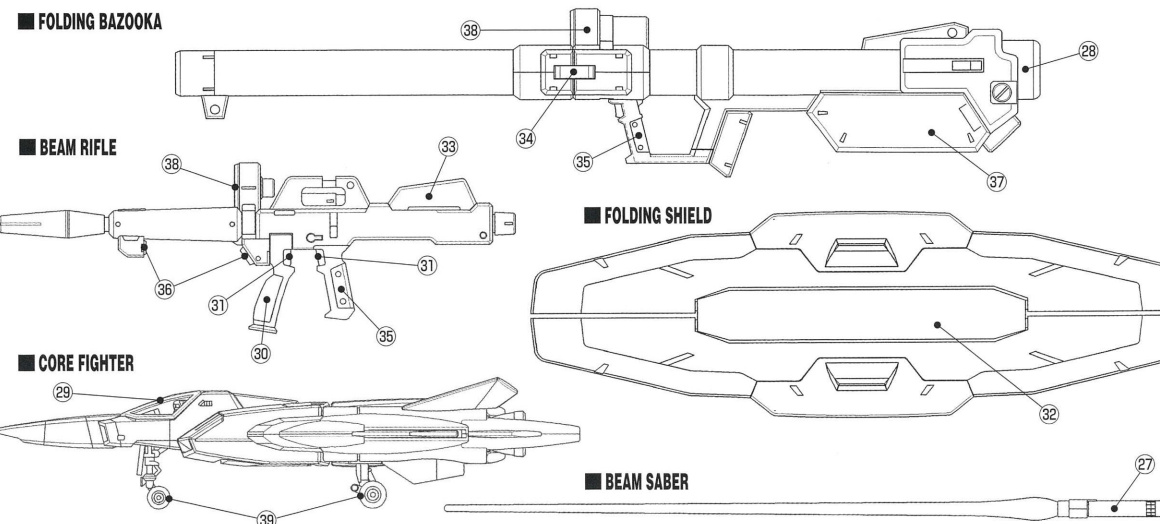


RX-78GP03S STAMEN



- | | | | | |
|--------------------|------------------|---------------|---------------|----------------|
| ①メインカメラ | ⑨デュアルセンサー | ⑰多目的ラッチ | ⑳サポートアームクロー | ㉓エネルギーバック |
| ②リアカメラ/センサー | ⑩フロントアーマー | ⑱可動フィン | ㉔エルボジョイントアーマー | ㉖フォールディングジョイント |
| ③サブセンサー | ⑪モニタリング用ブレードアンテナ | ㉒メインスラスタ | ㉕ビーム・サーベル | ㉗グリップ |
| ④サブスラスタ | ⑫マルチブレードアンテナ | ㉑リアアーマー | ㉘ダクト | ㉙ジュッテジェネレーター |
| ⑤サブスタンスコントロールシステム | ⑬ビーム・サーベルラック | ㉓アングルサポートユニット | ㉚キャノピー | ㉜マガジン |
| ⑥サブインターフェイスアンテナ | ⑭ショルダーアーマー | ㉔マニピュレーター | ㉛フォアグリップ | ㉝サイトセンサー |
| ⑦サイドアーマー/バインダーコネクタ | ⑮ベンチレイテッドフィン | ㉕バックパック | ㉜トリガー | ㉞ランディングギア |
| ⑧ニージョイントアーマー | ⑯コクピットハッチ | ㉖フォールディングアーム | ㉝フォールディングシールド | |

注) RX-78GP03Sガンダム試作3号機ステイメンは、一年戦争終結後の「ガンダム開発計画」により極秘裡に建造された。U.C.0083年11月11日、デラズ・フリートによる「コロニー落とし」阻止のため出撃し、ノイエ・ジール、ガーベラ・テトラ等と激戦を繰り広げ、大破している。



HEAD UNIT

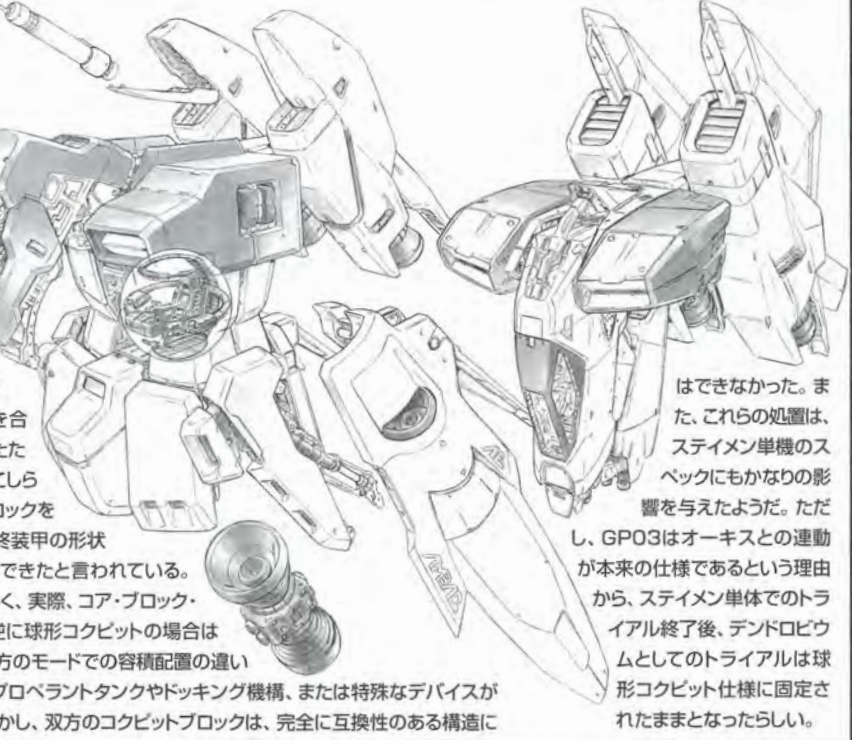
GP03Sのヘッドユニットは、ガンダム開発計画に基づくモニタリング用装備の他、各所にサブセンサー類が高密度に実装されている。これは、通常の状況把握のみならず、複雑な火器管制システムをコントロールするために、独自の制御デバイスを装備している。

GP03Sのヘッドモジュールは、ガンダム系のシルエットを持ちながら、モニタリング用の装備や走査端末などには独自のデバイスが装備されている。また、原則的にオーキスとの運動が前提とされるため、ある程度の遠隔誘導や最低限のドッキングコントロールが可能な相互通信システムを備えており、ミノフスキー粒子の散布濃度によっては、連携攻撃も可能であつたらしい。実際、火器の換装そのものはドッキングしていなくても可能であり、電波、レーザー、接触回線などを通じて武器供給が可能だと言われている。



BODY UNIT

GP03Sのボディユニットは、全天周モニターを装備するものと、コア・ブロック・システムを装備するタイプのもの検討されていた。これはGP01のFb化のように時期的なものだった可能性もあるようだ。

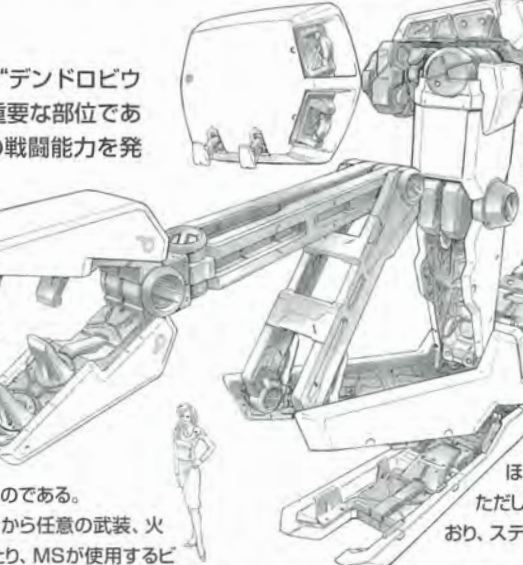


GP03Sは、当初、構造の異なるコクピットシステムを複数採用する予定だった。それは、将来的に双方の機能を統合する構想があつたため、この時期を合わせ持つインターフェイスの実現が困難だったため、双方に特化したコクピットをそれぞれにこしらえようとしたのである。そのため、ボディ・ブロックをまるごと交換する必要こそあつたものの、最終装甲の形状やコクピットハッチなどは、ほぼそのまま流用できたと言われている。GP01とFbほどの設計変更も不要だったらしく、実際、コア・ブロック・システムの場合は胸部が構造限界一杯で、逆に球形コクピットの場合は腹部が構造限界一杯となる。基本的には、双方のモードでの容積配置の違いを調整するため、それぞれのモードに応じてプロペラントタンクやドッキング機構、または特殊なデバイスが適宜組み込まれることになっていたらしい。しかし、双方のコクピットブロックは、完全に互換性のある構造に

はできなかった。また、これらの処置は、ステイメン単機のスペースにもかなりの影響を与えたようだ。ただし、GP03はオーキスとの運動が本来の仕様であるという理由から、ステイメン単体でのトライアル終了後、デンドロビウムとしてのトライアルは球形コクピット仕様で固定されたままとつたらしい。

ARM UNIT

GP03Sの腕部は、オーキスを含む「デンドロビウム」としてのシステムを構成する最重要な部位である。これによってGP03は、未曾有の戦闘能力を発揮することができるのである。



GP03Sの腕部は、フォールディング・アームを展開することで、およそ3倍以上のリーチを持つ。これは、言うまでもなくアームベース・オーキスとの運動のため、これなくして「システムとしてのGP03デンドロビウム」は完成しないのである。つまり「ガンダム試作3号機」とは、MSユニットであるステイメンが、コントロールユニットとしてオーキスとドッキングしている状態のことを言うのである。GP03は、戦況に応じてウエポンコンテナから任意の武装、火器を選択し使用する。その武装は多岐にわたり、MSが使用するビ

ーム・ライフル、バズーカ、シールドはもとより、マイクロミサイル、大型集束ミサイル、500mの導線を持つ爆導弾など、多種多様な装備を誇る。コンテナは合計で16のスロットを持ち、それぞれに規格化された専用の武装が装備されている。MSの平均的な戦闘パターンが、遠距離狙撃から中距離に至り、実体弾やビーム砲の応酬から機銃、斬撃用武装による近接戦闘に至り、後にそれぞれ離脱するというフォーマットから考えれば、戦闘状況によっては、逆に全ての武装を使い切る事の方が難しいほどの膨大な火力であると言えるだろう。ただし、その武装を活かすも殺すも、文字どおり、ステイメンの「腕」次第、なのである。

Mechanism illustration : BEE-CRAFT

注意

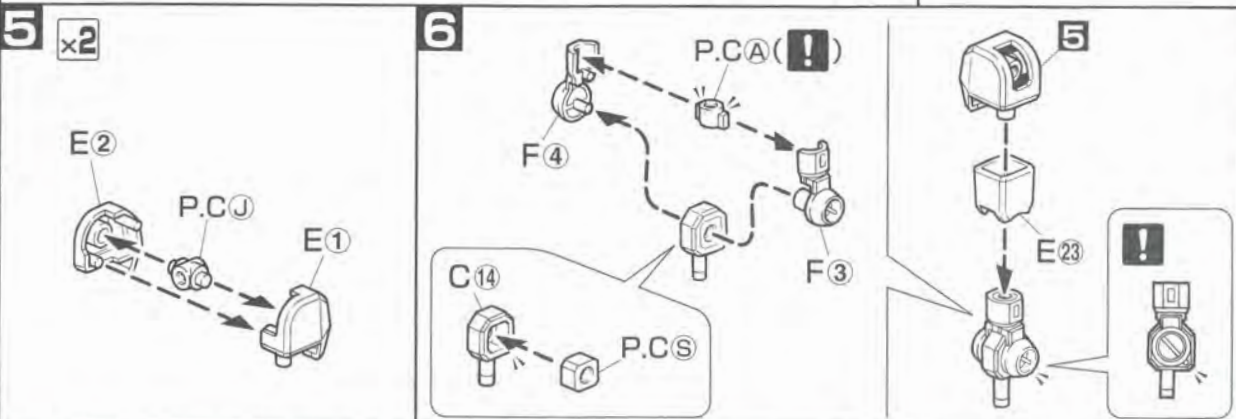
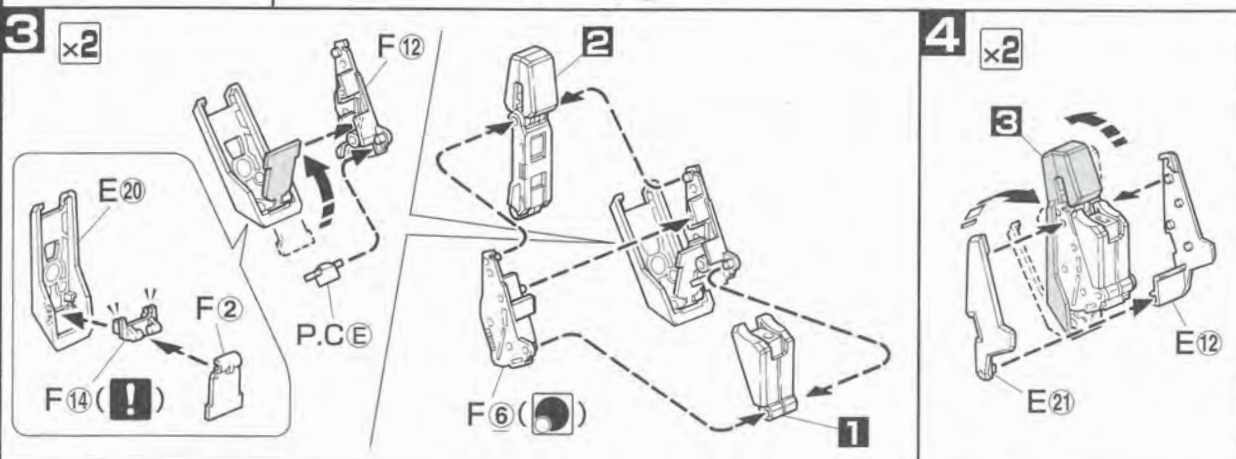
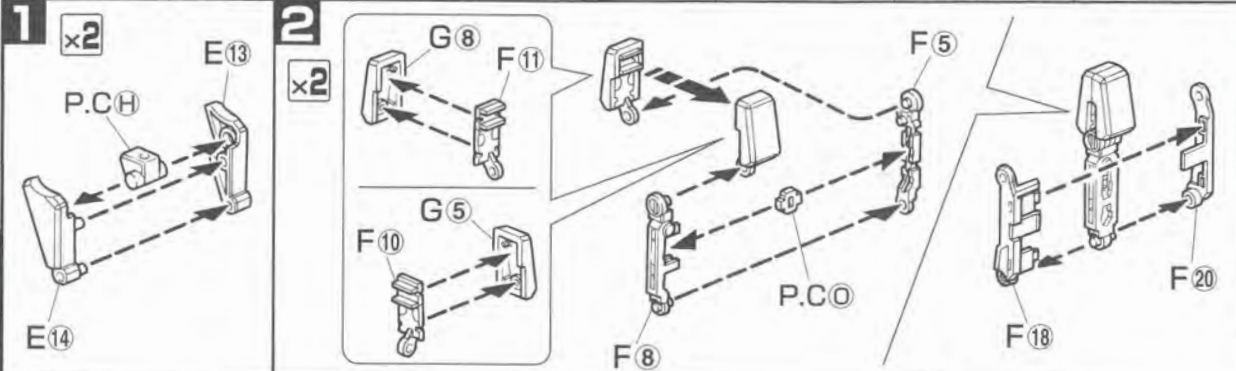
お買い上げのお客様へ必ずお読みください。

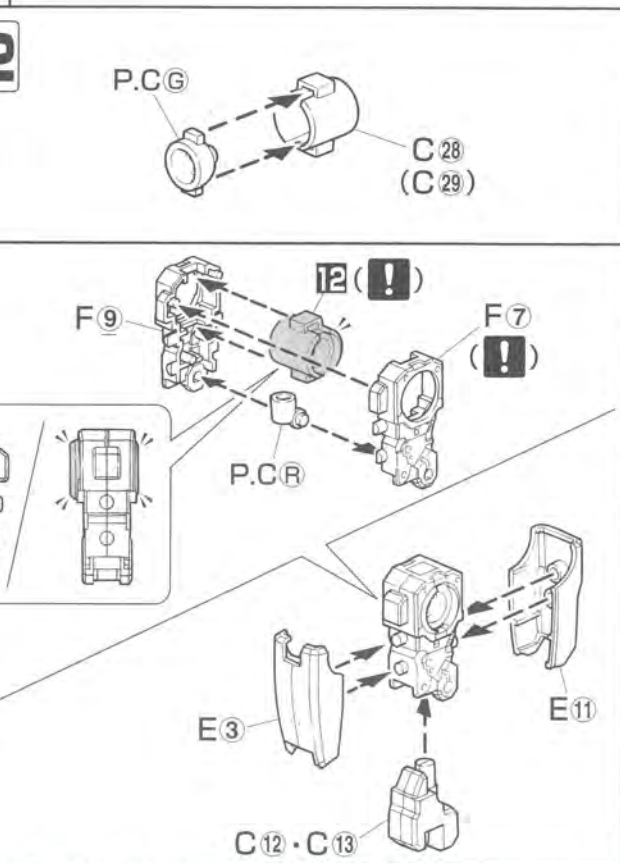
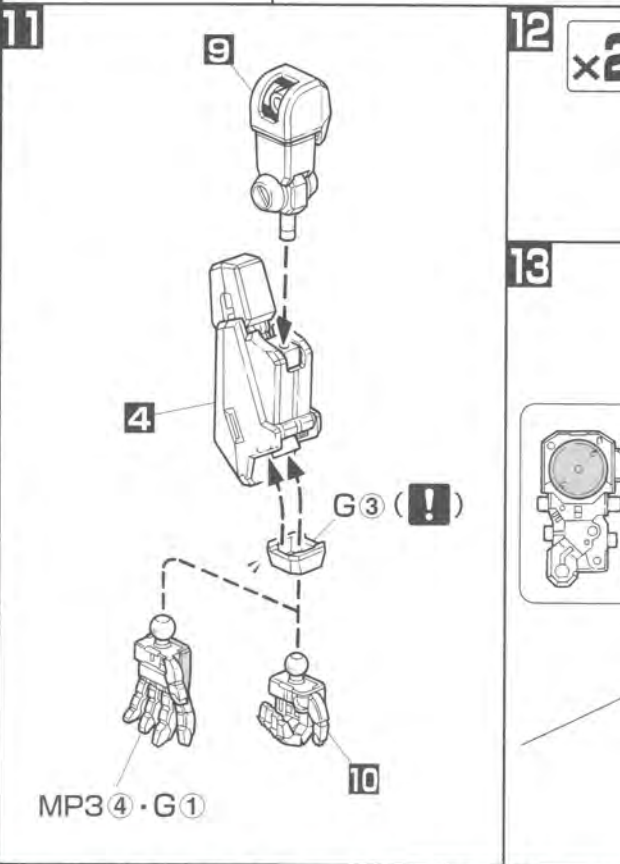
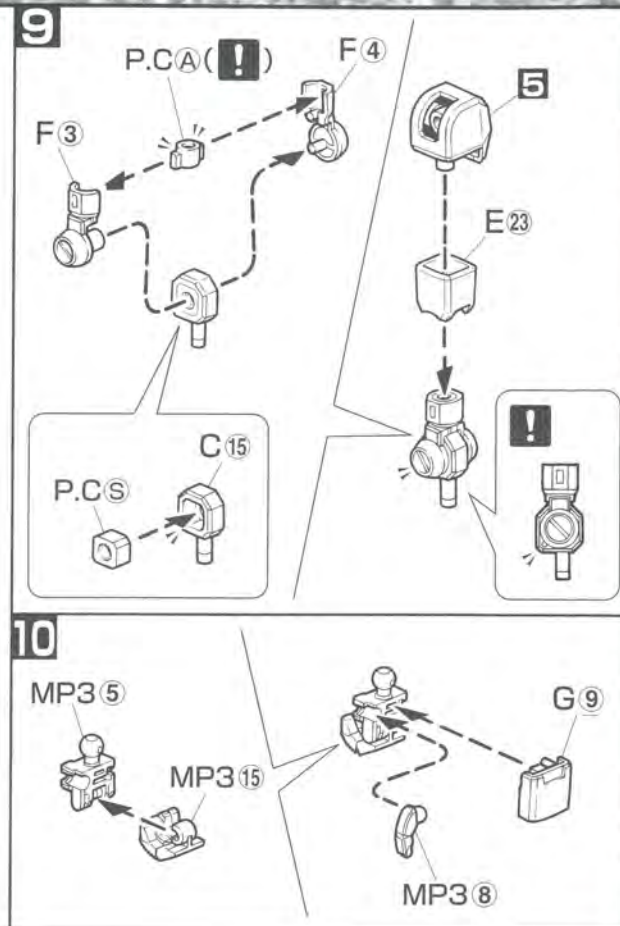
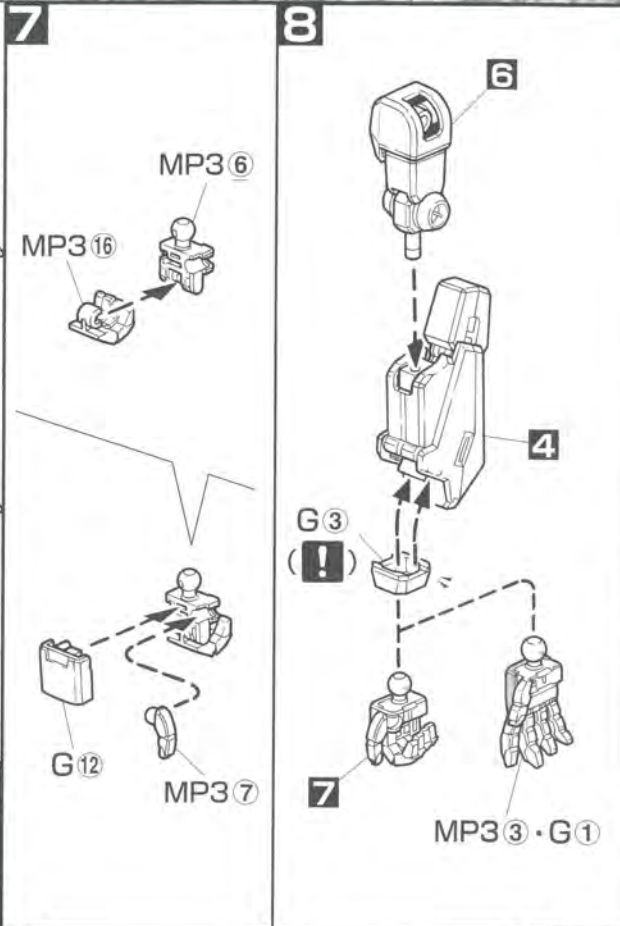
- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が誤って飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。

- 〈組み立てる時の注意〉
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
 - 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
 - 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
 - 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
 - 尖った先端や薄い縁端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。
 - ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

※このキットの組み立てには+(プラス)ドライバーをしますので別にご用意ください。

・接着をするところの線	・シールの番号	・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける	・ビスの締めすぎに注意
・切り取るところ	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける	・反対側も同じように動かします





CORE FIGHTER

GP03Sのコクピットの仕様決定は、ロールアウト寸前までもつれ込んだとする資料もある。コア・ブロック・システムはそれほど有用なシステムでもあったのだ。

GP03Sは元々「ガンダムタイプ」のMSであり、GP01と同様の水平収納方式(水平・イン・ザ・ボディ)によるコア・ブロック・システムの採用が検討されていた。変形する機体は便宜上コア・ファイターⅡ-Spと呼称され、標準的なスペックの高速航宙艇、または空間戦闘機である事以外の詳細は不明であり、あくまで試験用の機体であったことを物語っている。採用予定のジェネレーターの素性からいって、大気圏内の飛行が可能だった可能性もあるという。同様に、武装の仕様なども不明だが、サーベル・ホルダー部分にデバイスを兼用するビーム・ガンの装備などが検討されたようだ。これは、Pスペック用のコア・ファイターが、基本的にはGP01のコア・ファイターⅡを踏襲する性能の機体であったことを物語っている。ただし、形状、構造的にはステルス性も盛り込まれており、コンセプトは必ずしも同一ではなかったようだ。一説には、コクピットブロックのみによる大気圏突入も可能だったと言われている。

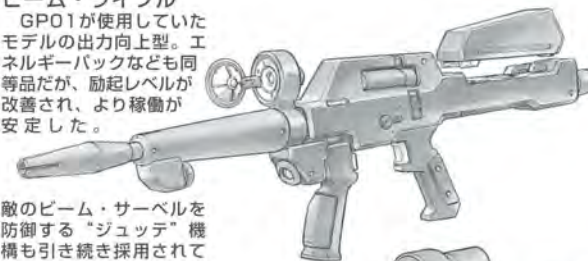
結局、GP03には、機体制御の他に膨大な兵器管制が必要であるため、全天周モニターがデフォルトのコクピットとして採用されることとなった。加えて、AEが自ら開発したリニアシートも組み込まれ、連邦軍による特殊な兵器管制用の補助デバイスも組み込まれているとする説もある。そのシステムを最大効率で稼働させるため、パイロットには特定の処方による投薬なども推奨されていたらしい。このことが、この機体の秘匿性を更に高くしているらしく、「トライアルプログラム以外の実戦投入」を軍上層部が頑なに拒んだ理由もそのためらしいが、詳細は不明である。



WEAPONS

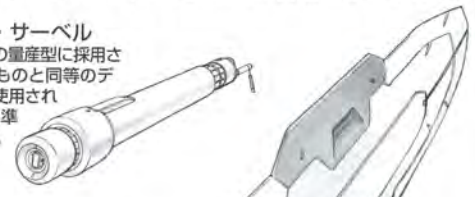
GP03Sの武装のほとんどは、オーキスとの運動を考えて新たに調達、設計されている。ただし、それらに使用される炸薬やセンサー、デバイスそのものには、実績があって信頼性の高い部材が用いられている。

ビーム・ライフル
GP01が使用していたモデルの出力向上型。エネルギーバックなども同等品だが、動起レベルが改善され、より稼働が安定した。

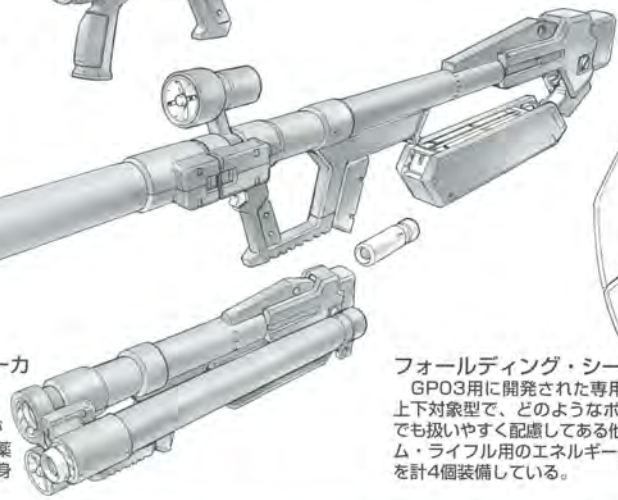


敵のビーム・サーベルを防御する「ジュッテ」機構も引き続き採用されている。

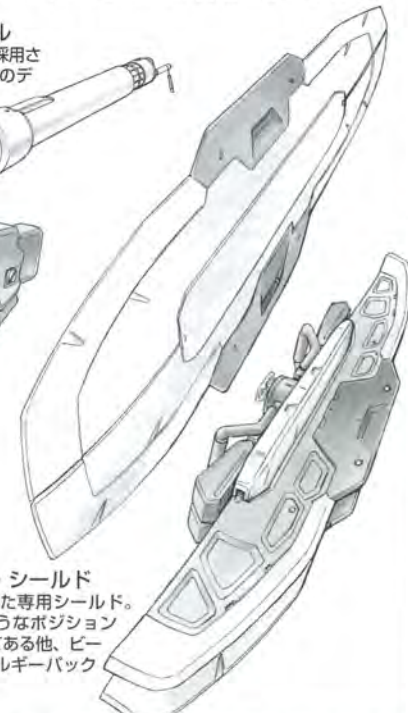
ビーム・サーベル
同時期の量産型に採用されているものと同等のデバイスが使用されている標準的な武装。



フォールディング・バズーカ
GP03用に開発された専用バズーカ。コンテナスロットに収まるように折り畳むことができる。マガジンには6発。薬室に1発装填されている。砲身は従来型より約5割長い。



フォールディング・シールド
GP03用に開発された専用シールド。上下対象型で、どのようなポジションでも扱いやすく配慮してある他、ビーム・ライフル用のエネルギーバックを計4個装備している。





DENDROBIUM

U.C.0083年11月11日、デラース・フリートによる月面へのコロニー落しを阻止すべく、ガンダム試作3号機受領のためラビアンローズに入港したアルビオン隊は、デラース・フリート追撃の任を解かれ、第401警戒中隊によって禁足されてしまった。加えて、ラビアンローズへの駐留と、同施設及び3号機の警備を命じられたのである。コーウェン中隊の内訌を得ていたはずの任務に妨害が加えられたのだ。3号機を開発したルセット・オデビーもまた、完成したばかりの3号機が、持ちもないうる覚えで取り上げられてしまうことを危惧していた。追追みするコウを始め、アルビオン隊のクルーたちは、このまま傍観することしかできないのだろうか。そんな中、コロニーがコースを変え、地球へ到着することが明らかになった。今、デラース・フリートを追撃できるのはアルビオン隊だけだった。もはや躊躇している暇はない。3号機のデッキに向かうコウとルセット。ところが、警戒中隊のナカト少佐は、任務を盾に一步も譲らず、焦点の定まらぬ面持ちで銃口を二人に向けていた。そして、MSデッキに銃声が鳴り響く……。



DEFENCE LIMITED POINT

U.C.0083年11月12日。状況打開のため、敢えて反乱を承知でラビアンローズを出航したアルビオン隊は、コロニーの阻止限界点に向け航行を続ける。先行したデンドロビウムは、ガトーの駆るノイエ・ジールと戦端を開くが、双方共に致命傷を与えることができないまま、互いに本隊へと帰還。補給の後、再び、ひたすらコロニーを追う。時間ばかりが過ぎる中、アルビオン隊にデラース・フリート別働の追撃隊が迫りかかる。迎撃のため、オーキスから分離してMS戦を仕掛けるコウのステイメンは、迫るザク、リック・ドムの群れを相手に、獅子奮迅の戦闘を繰り広げる。僚機を駆るキース、モンシア、アデル、ペイトらも、トリントン以来の無念を晴らすべく、敵を撃ち続けている。辛くも敵MS部隊を退けるものの、クルーの疲労も極限に達していた。地球軌道間近となったその時、その彼方には無数の光が輝いていた……。



DESPAIRING FIELD

U.C.0083年11月13日。デラース・フリートとの戦いは終わった。コロニーは地球に落ち、アルビオン隊は敗北した。ガトーとの決着もつけられぬまま、大破したデンドロビウムの中で気付いたコウは、自分と戦うために待っていてくれたガトーとの決闘に割り込んできた圧倒的な光芒を思い出しながら、もはや鉄屑と化したオーキスからステイメンを引きずり出すように分離させ、あてもなく漂っていたビーム・ライフルを手にとった。と、モニターの片隅に、軌道艦隊のものであろうサラミスが見えた。その傍らに、ひどく許せない存在を感じたコウは、それまでのすべての感情を、その存在に積み重ね、激情に駆られてライフルのトリガーを引き絞っていた。「うあああああっっ!!」しかし、ビームの光跡は虚しく宇宙の闇に消えていってしまった……。

ACTION POSE



LEG



WEAPONS



PAINTING

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご確認ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。
●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー(MG「ガンダム試作3号機ステイメン」用)をお使いください。

- 本体の塗装色。
ホワイト(100%)
※またはガンダムカラー ホワイト5
- 胸部の塗装色。
コバルトブルー(60%) + インディブルー(40%)
※またはガンダムカラー ブルー17
- コクピットハッチなどの塗装色。
モンザレッド(100%)
※またはガンダムカラー レッド1
- 胸部インテークの塗装色。
イエロー(70%) + オレンジイエロー(30%)
- 関節の塗装色。
ニュートラルグレー(80%) + ネービーブルー(10%) + ブルー(5%) + パール(5%)
- 武器の塗装色。
ネービーブルー(70%) + ミディアムブルー(30%) + パール少量
- センサー類の塗装色。
蛍光グリーン(100%)



FRONT VIEW



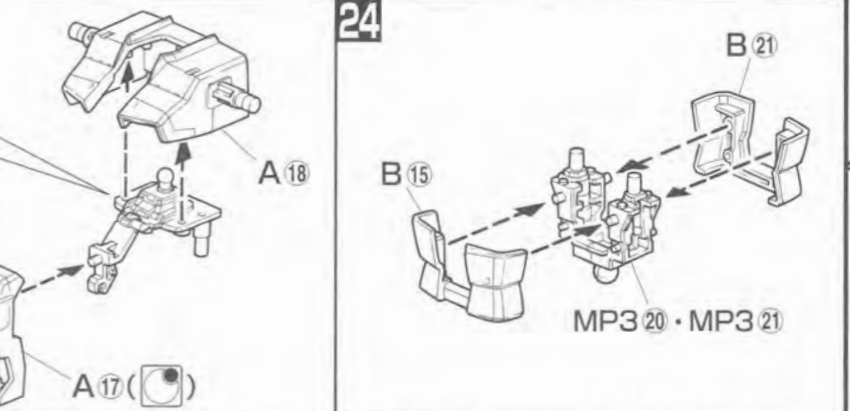
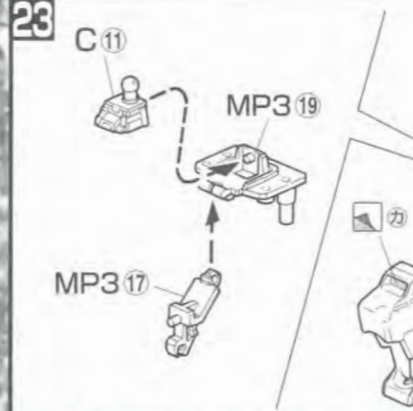
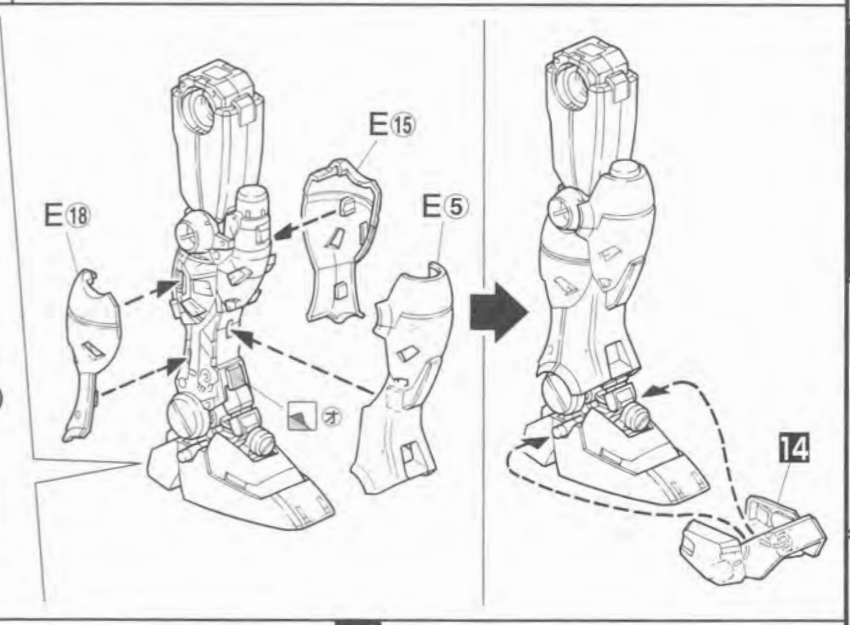
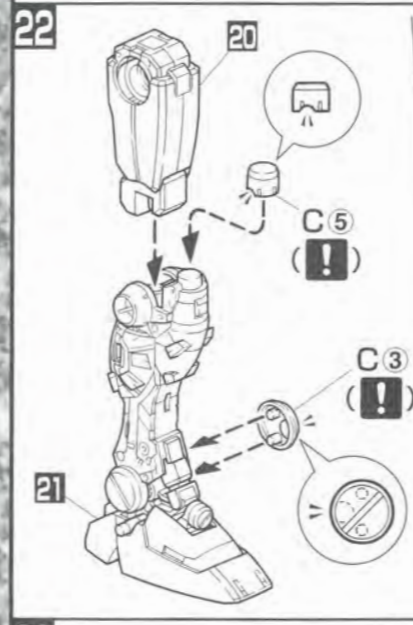
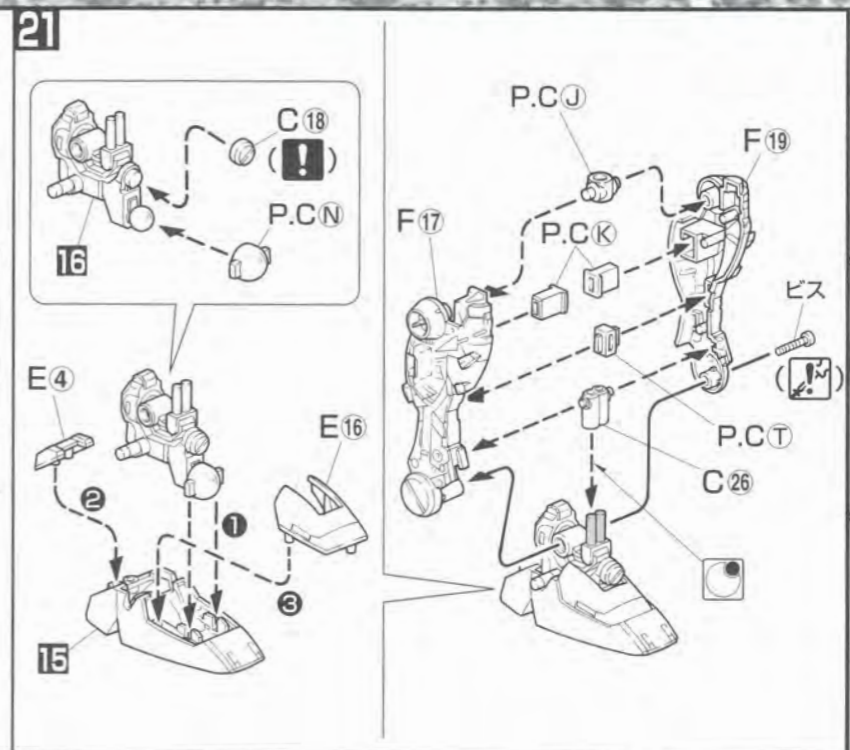
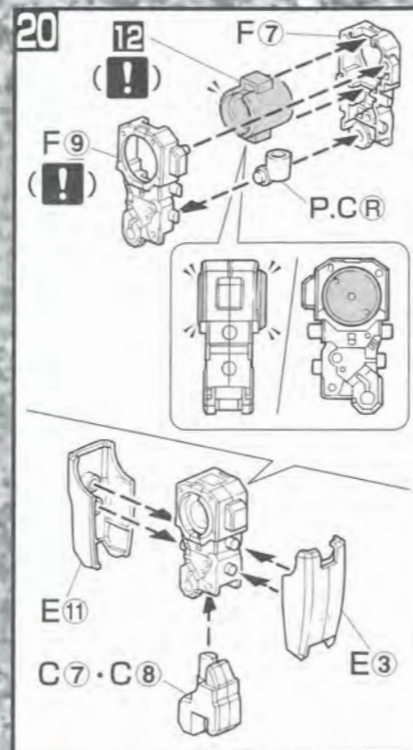
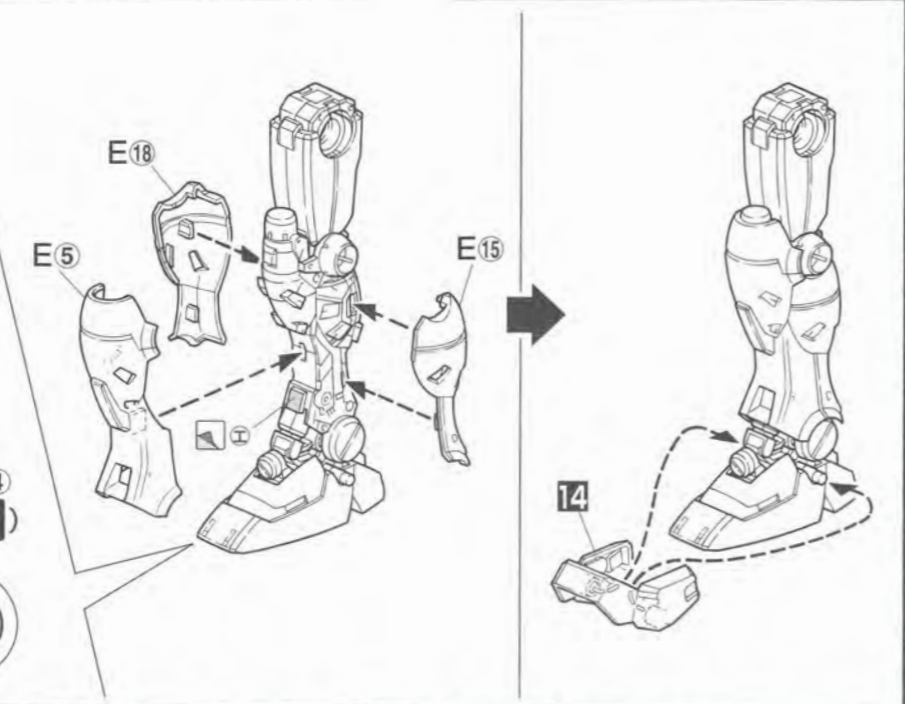
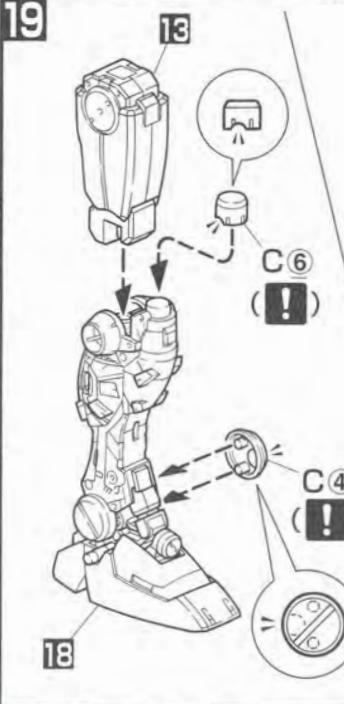
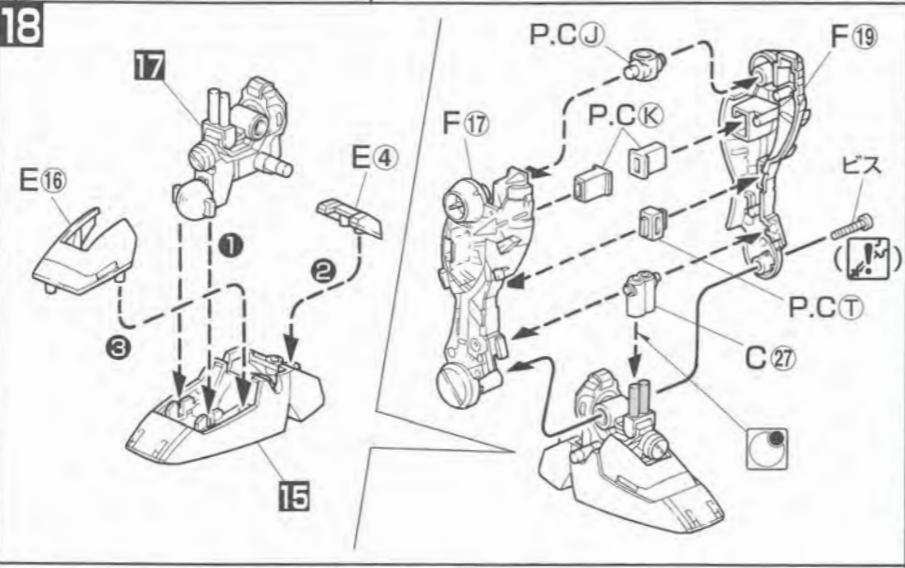
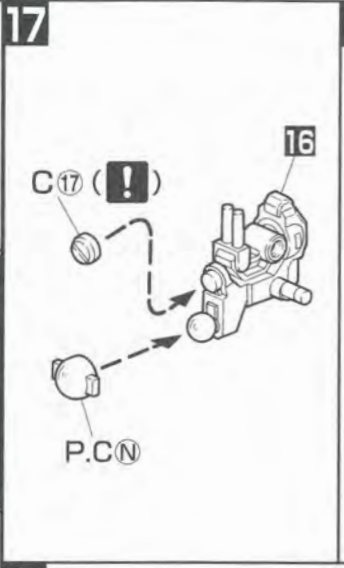
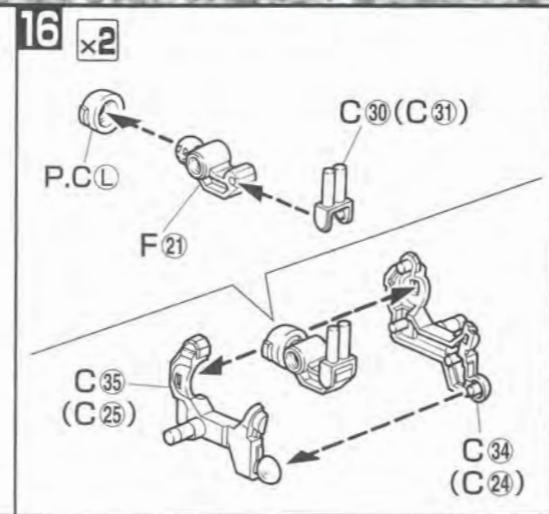
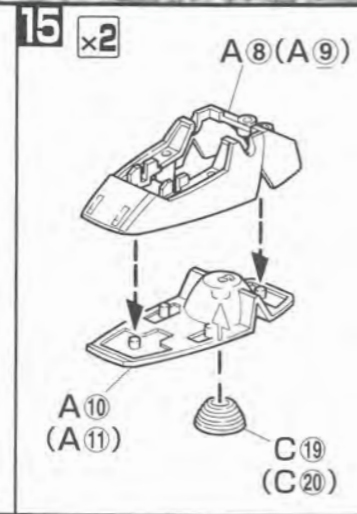
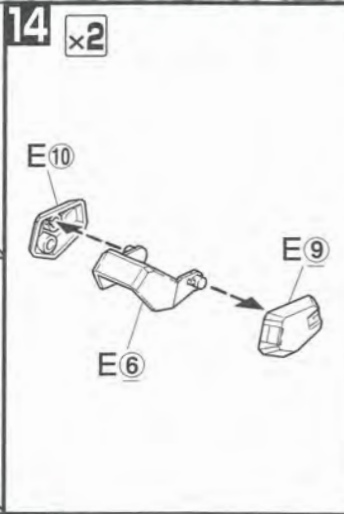
REAR VIEW

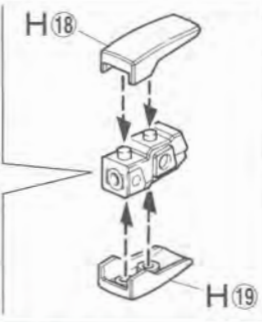
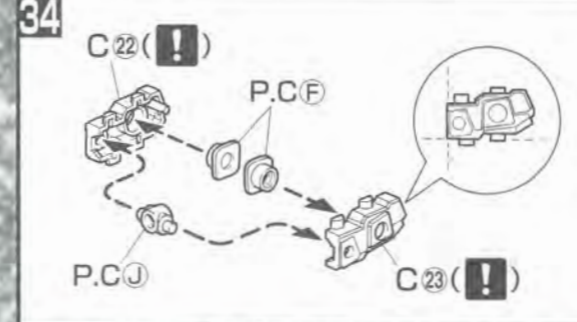
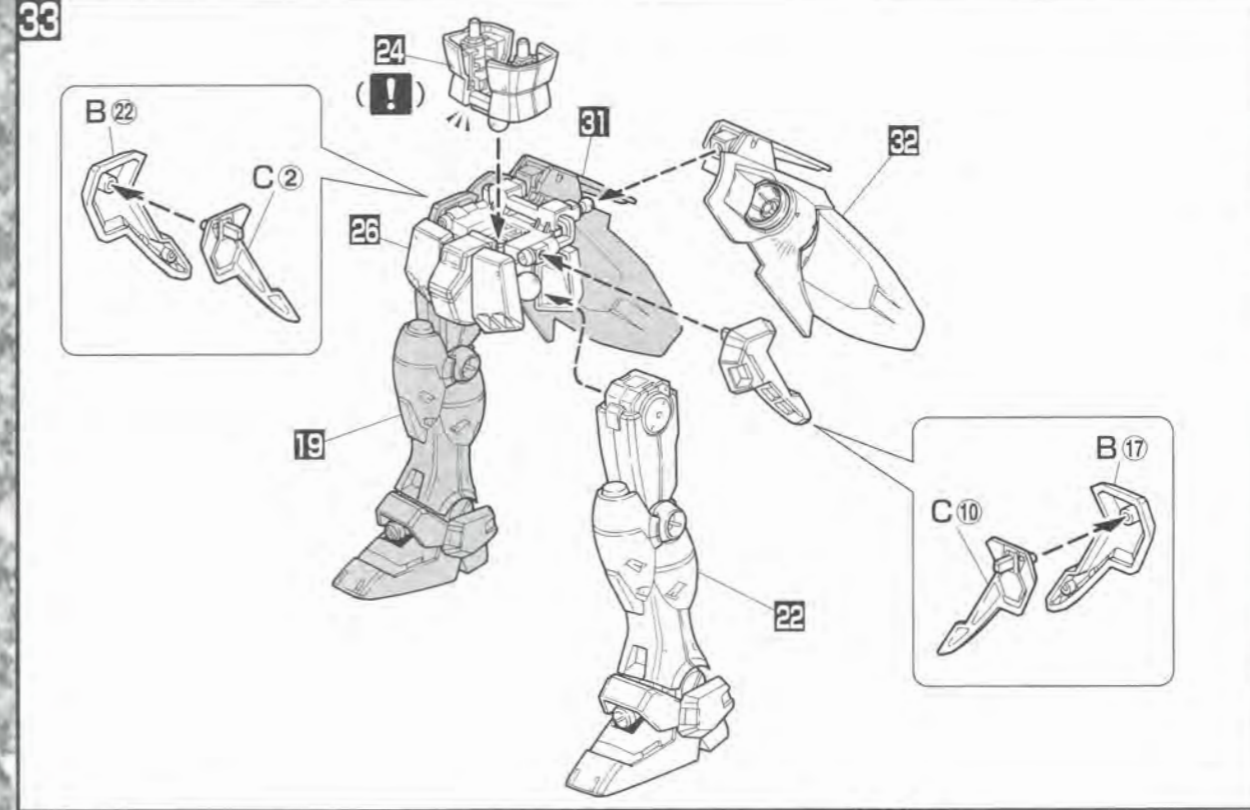
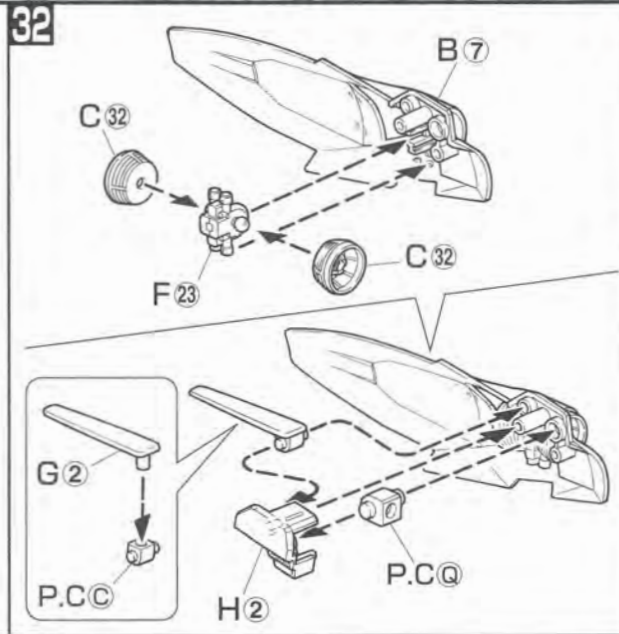
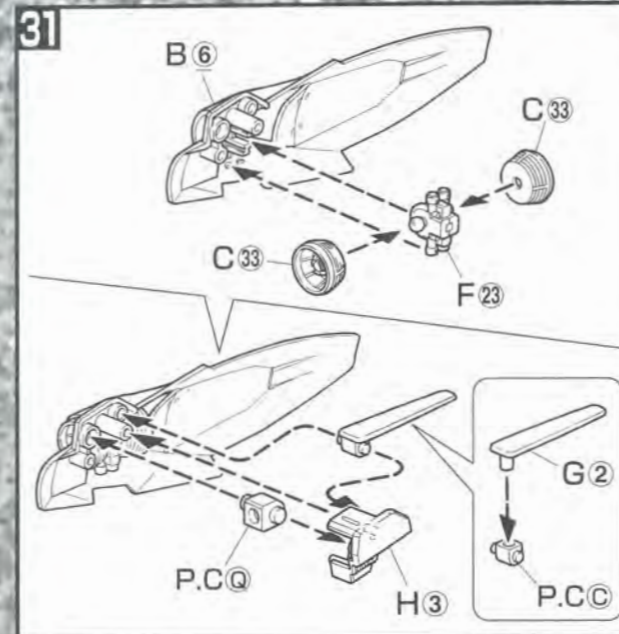
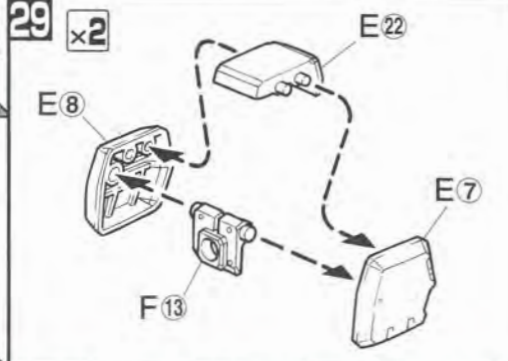
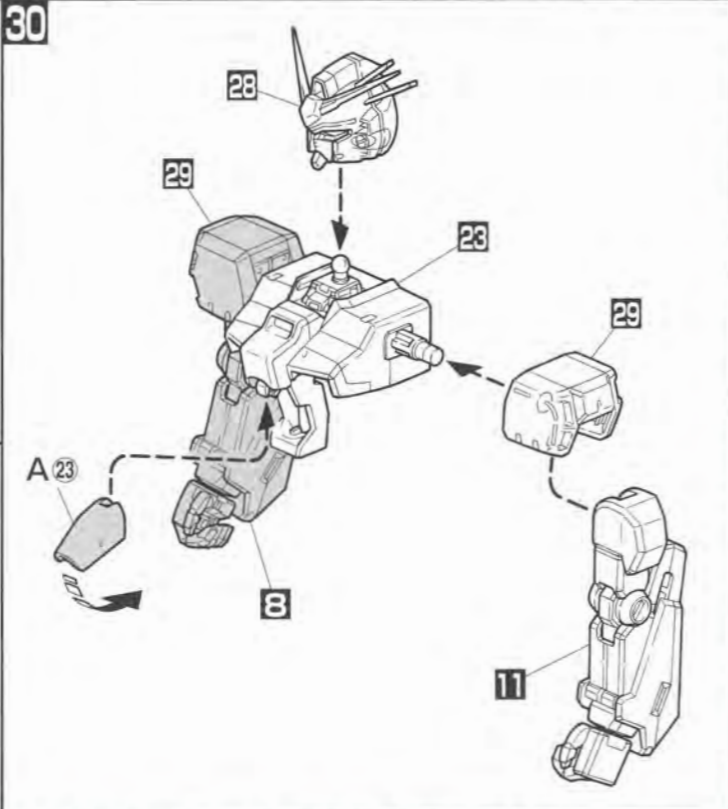
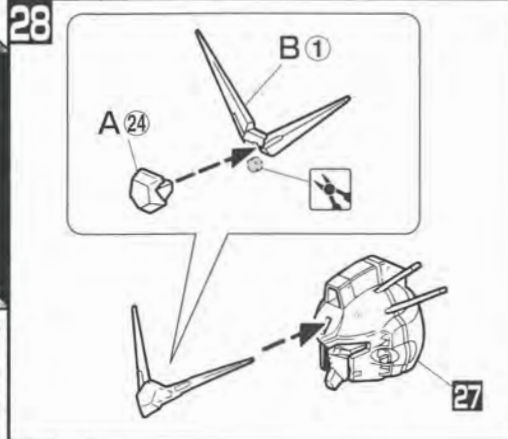
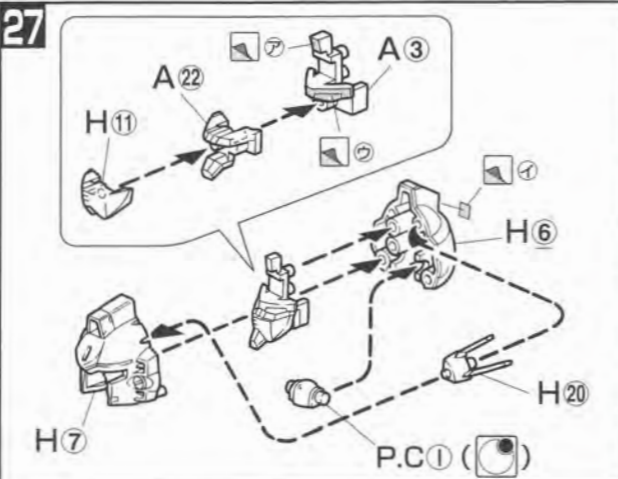
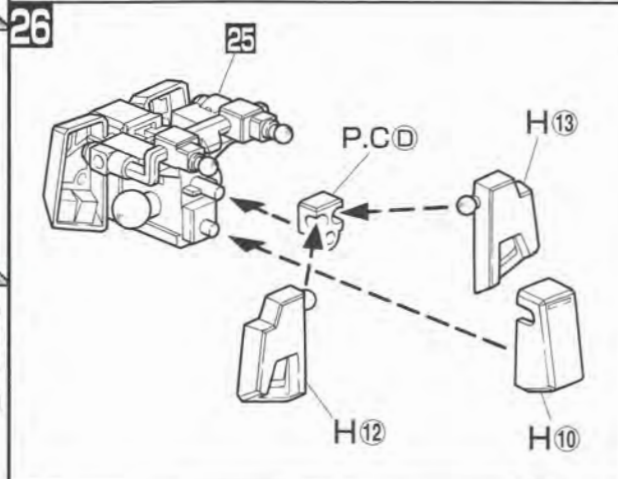
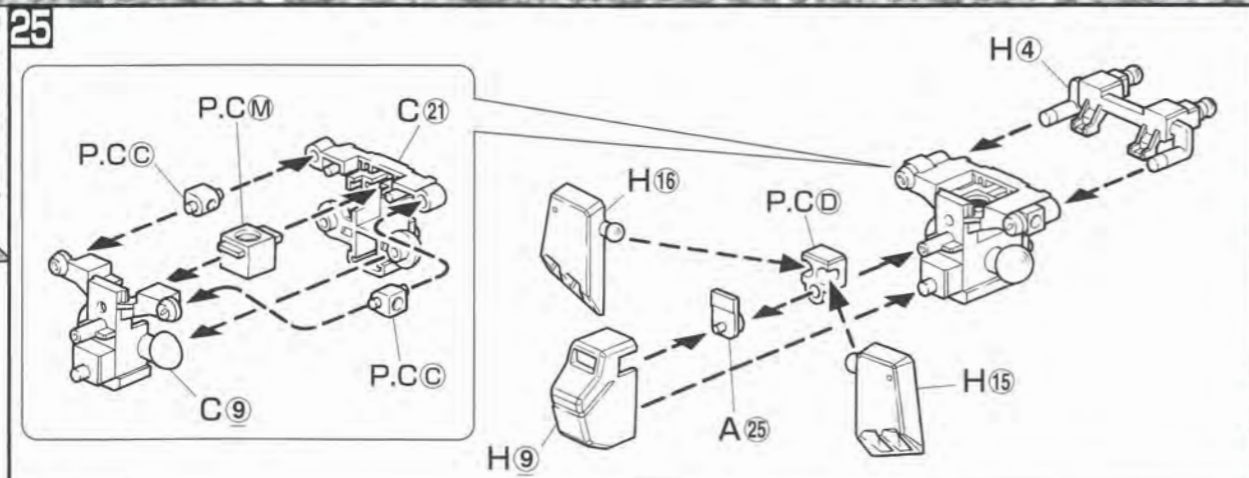


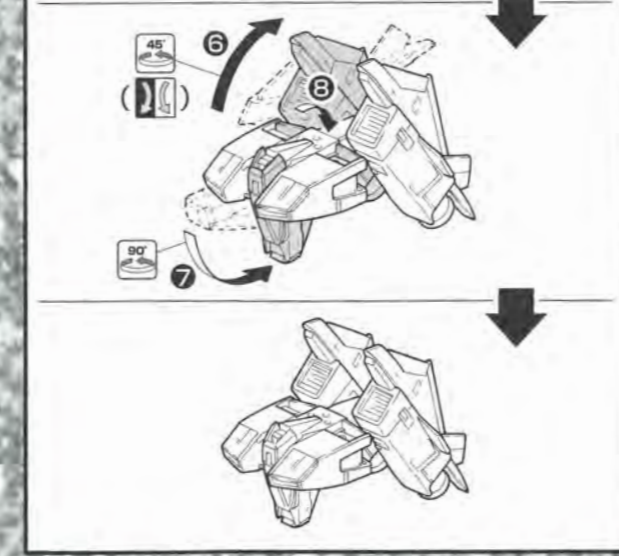
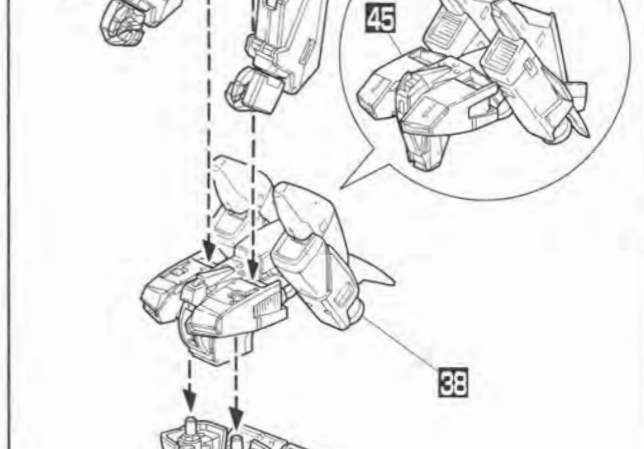
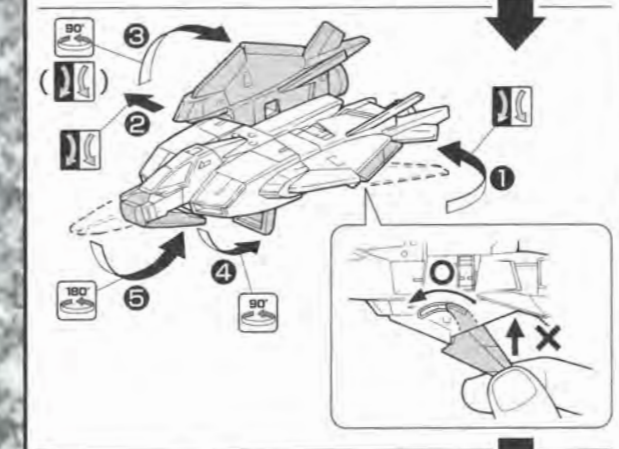
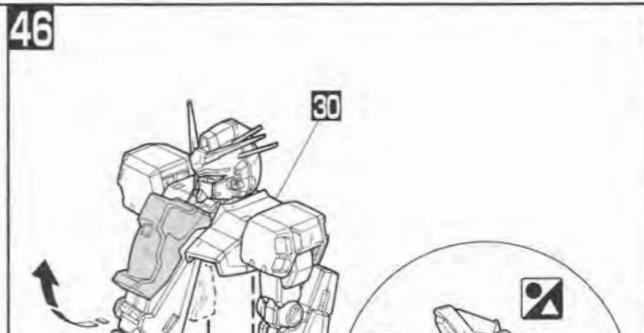
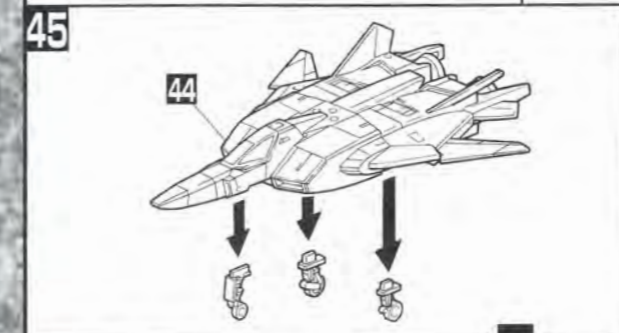
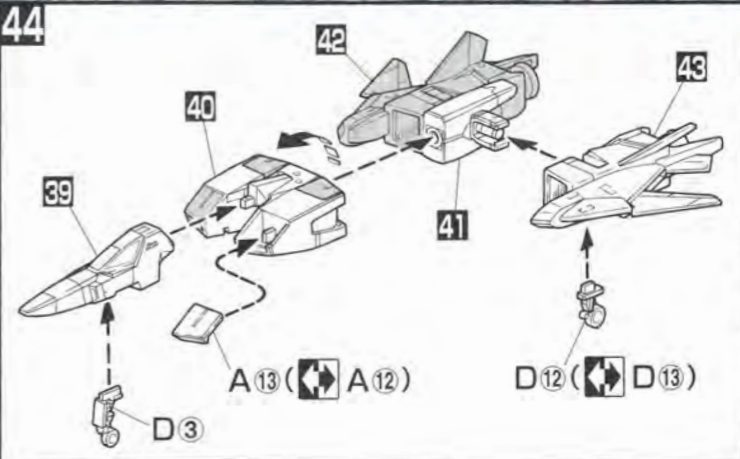
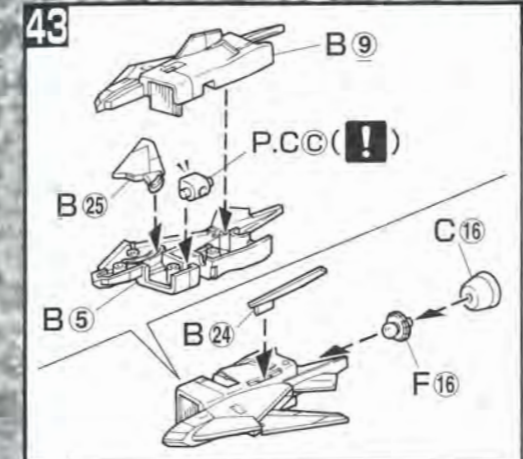
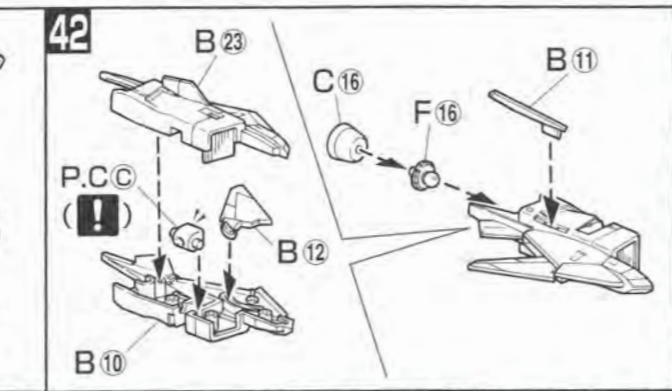
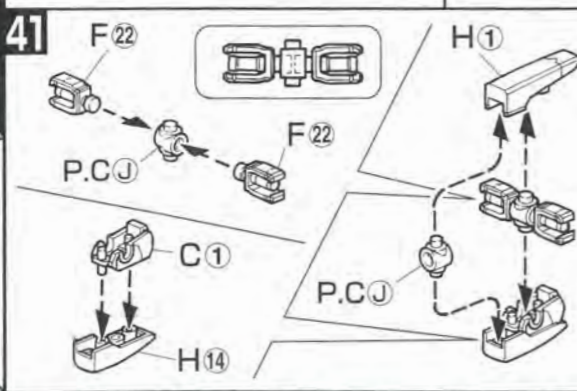
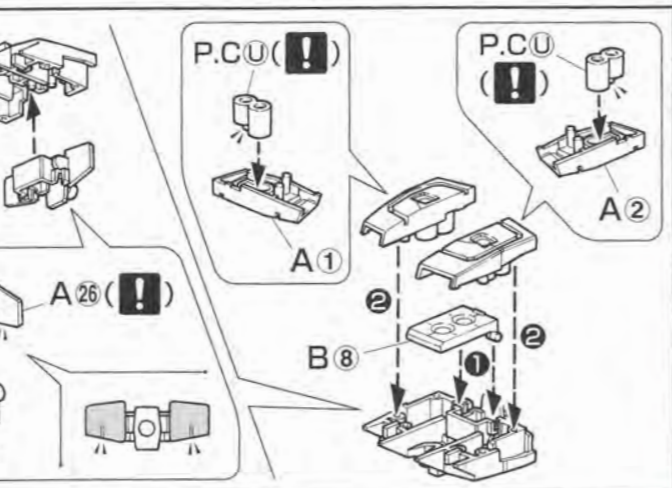
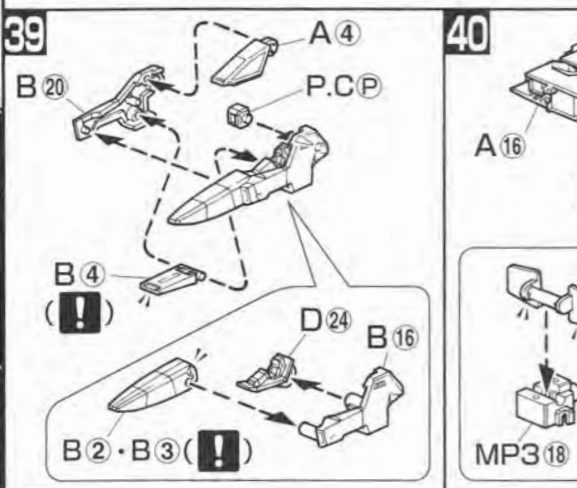
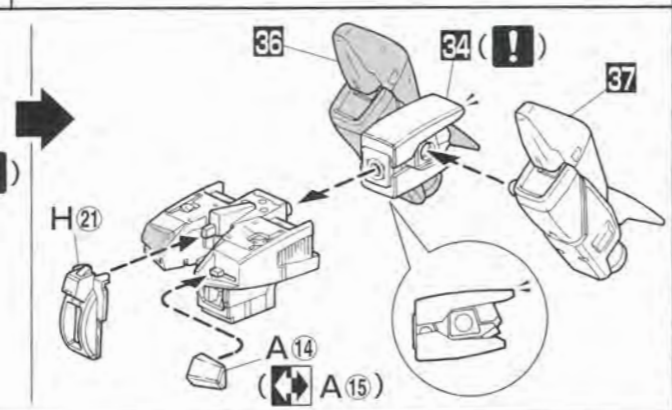
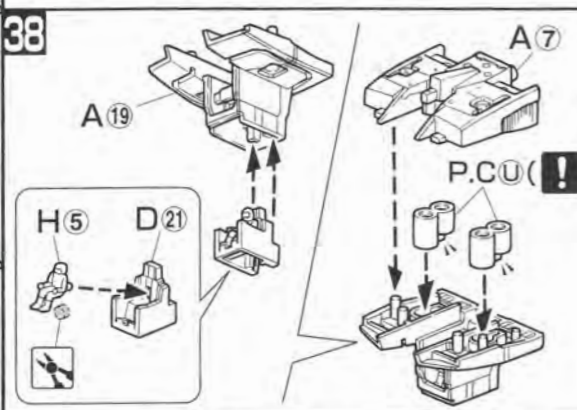
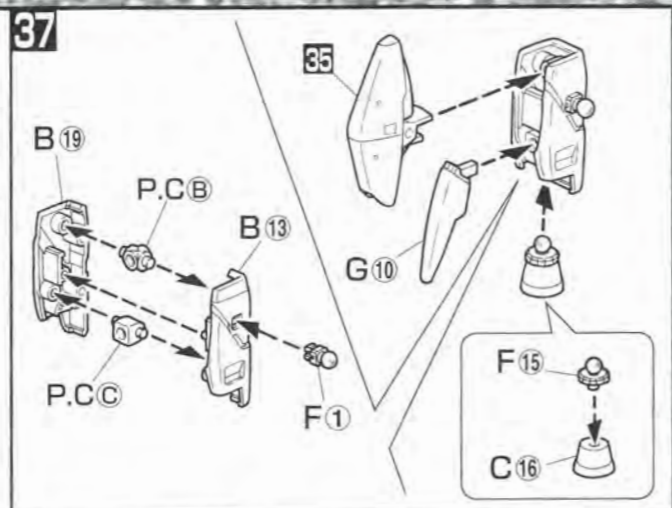
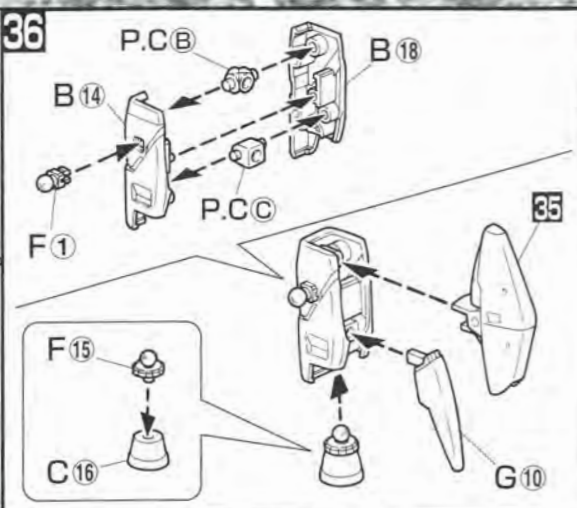
▲腕部は装甲の展開及び内部メカの回転、伸長によるフォールディング・アームを精密に再現。

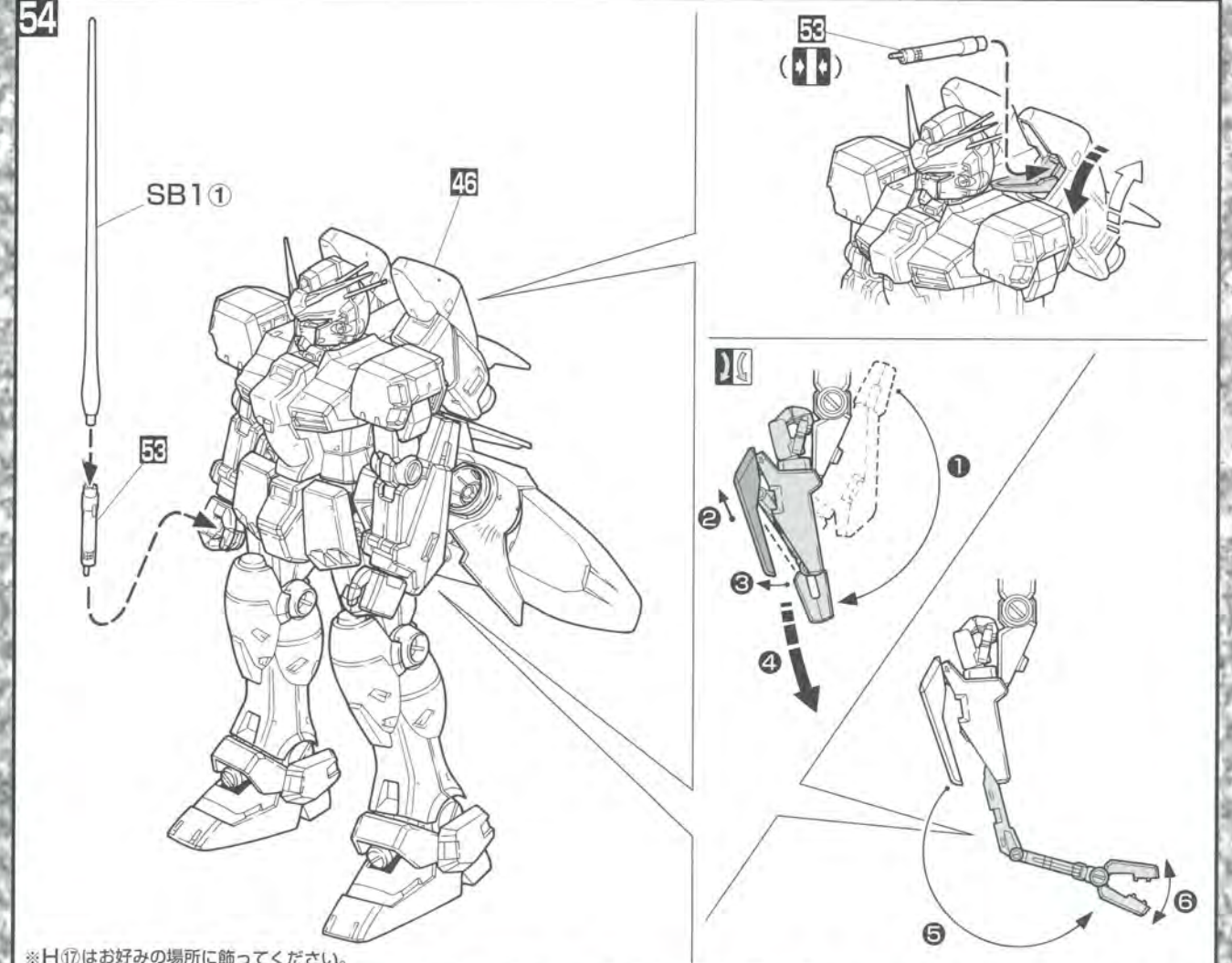
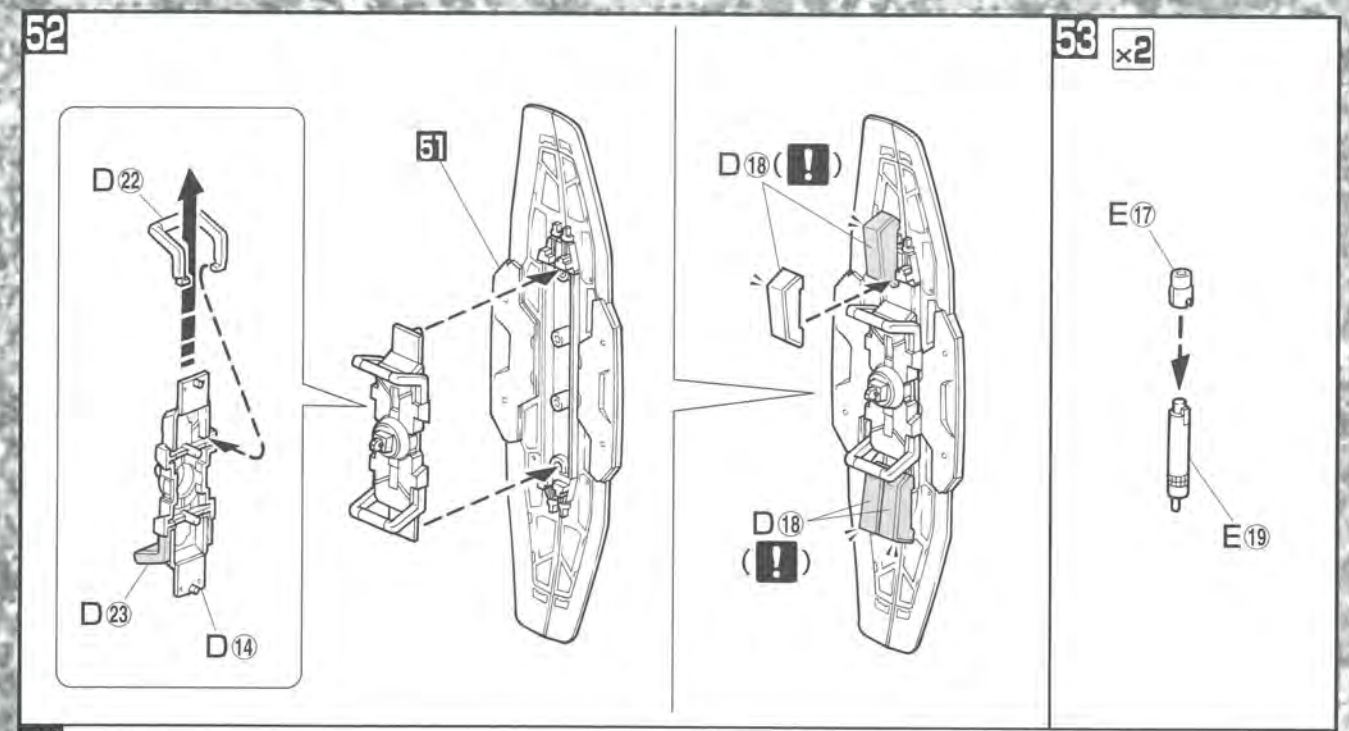
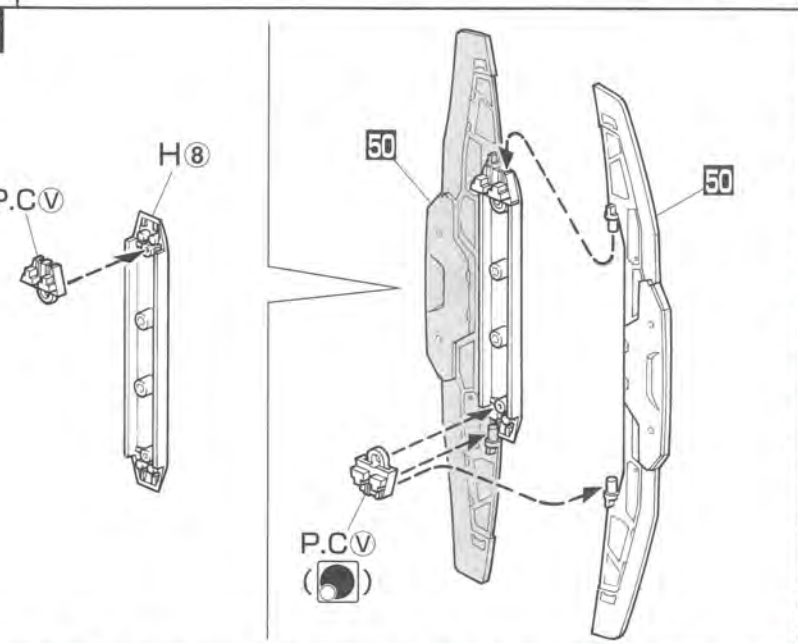
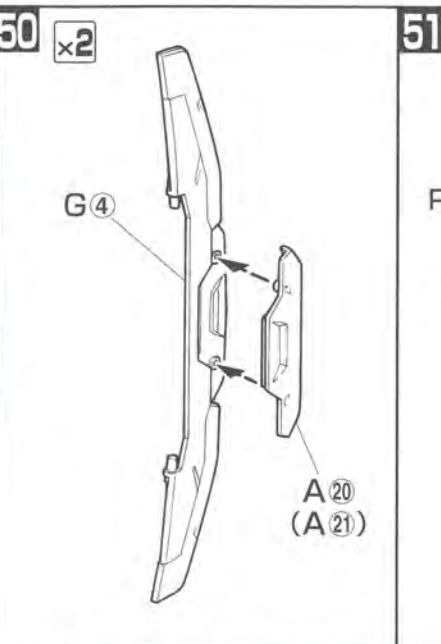
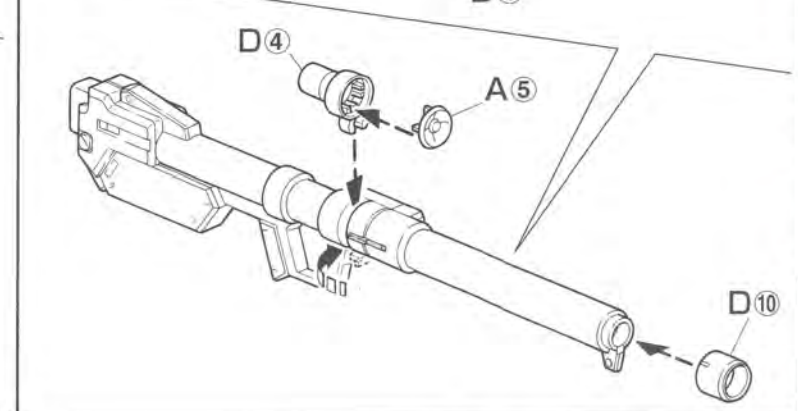
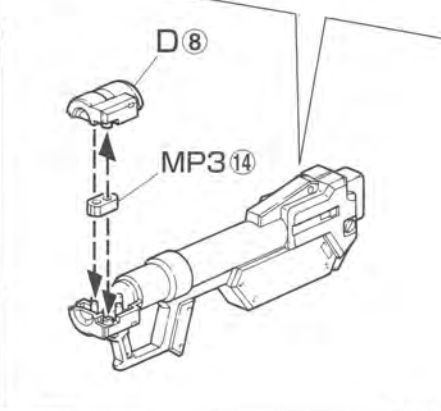
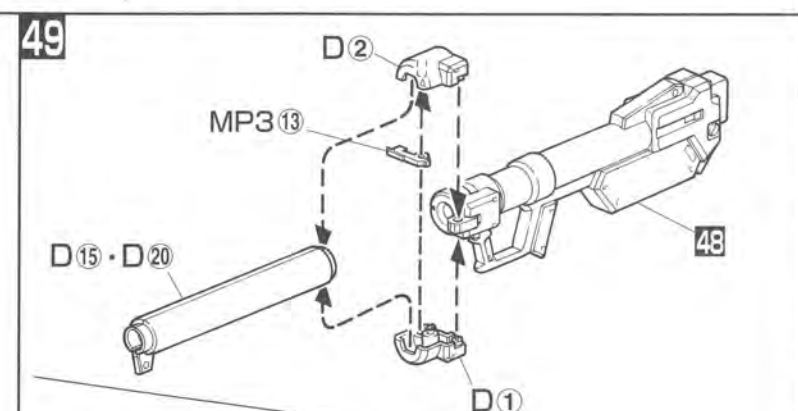
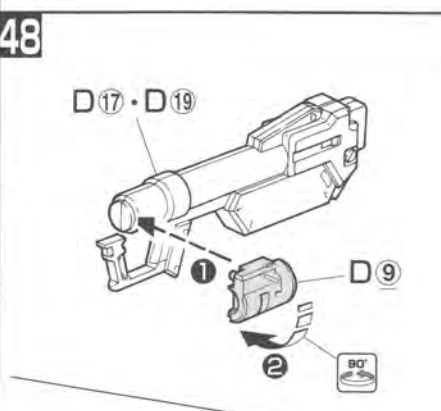
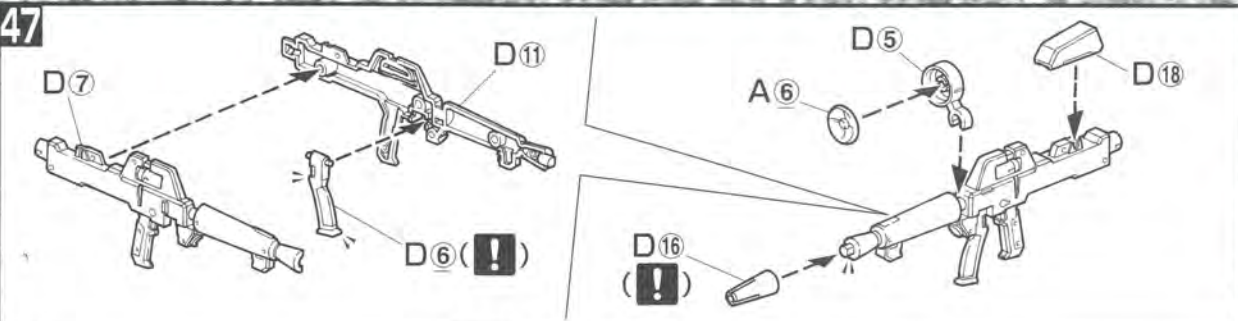


▲背部バックパックのサーベルラックが展開、ビーム・サーベルは、脱着可能。
▲コア・ファイターは変形し、もう1つのコクピット及びバックパックとして胴体に結合可能。

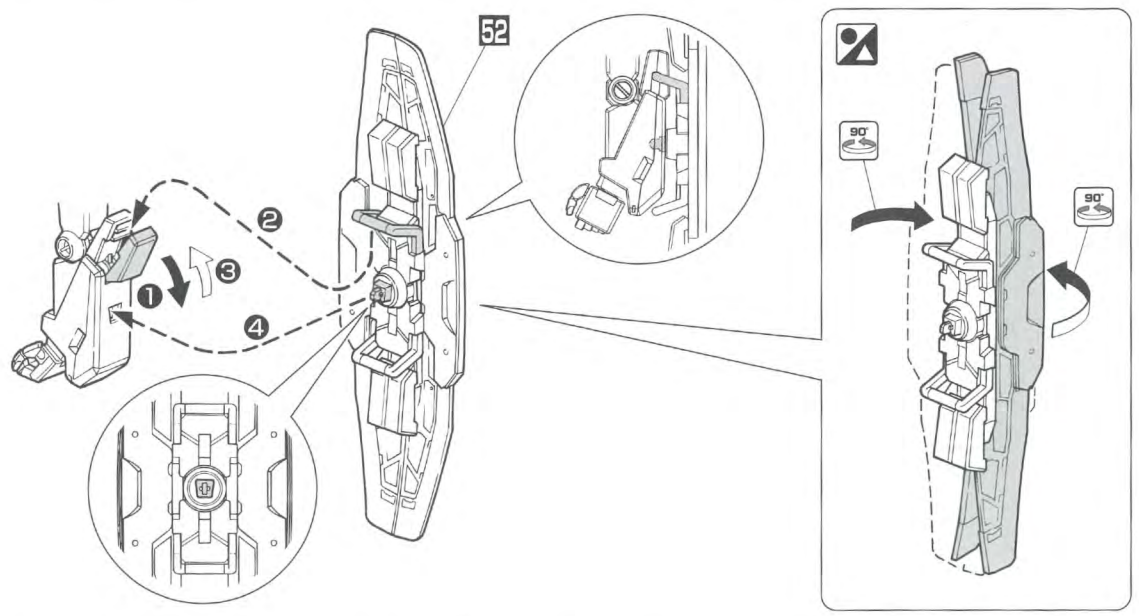
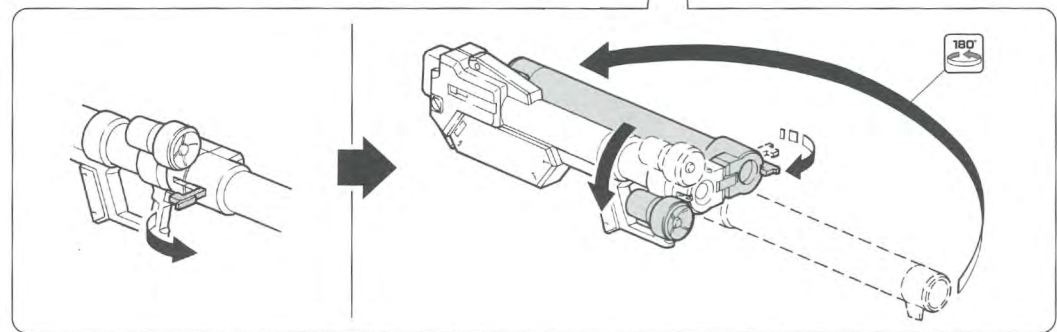
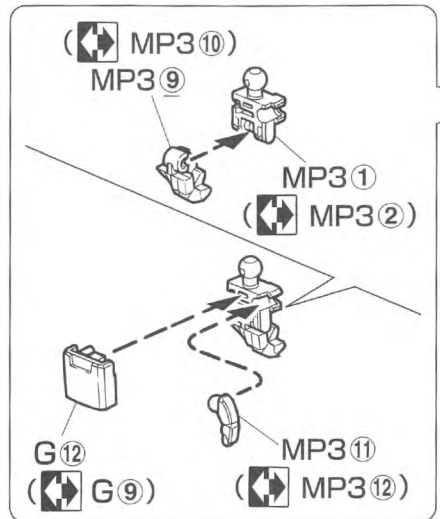
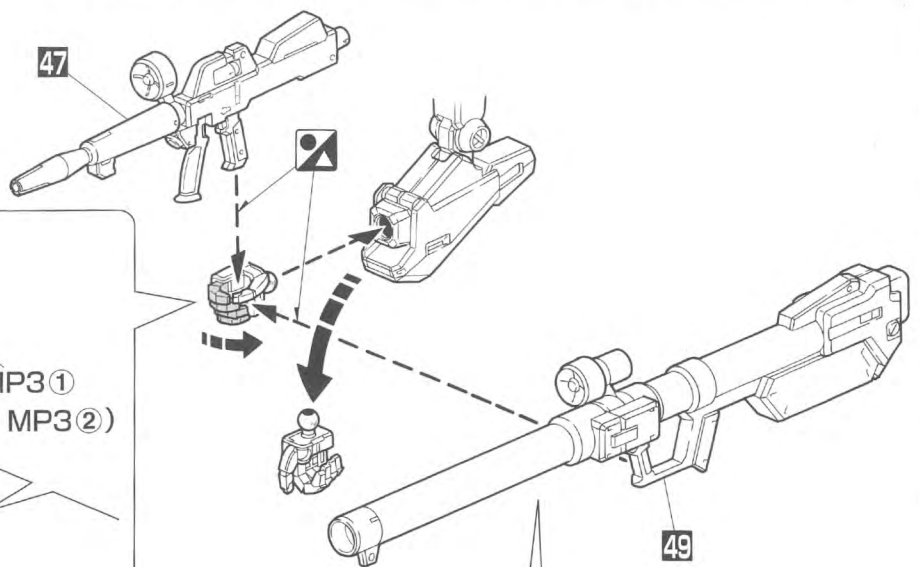








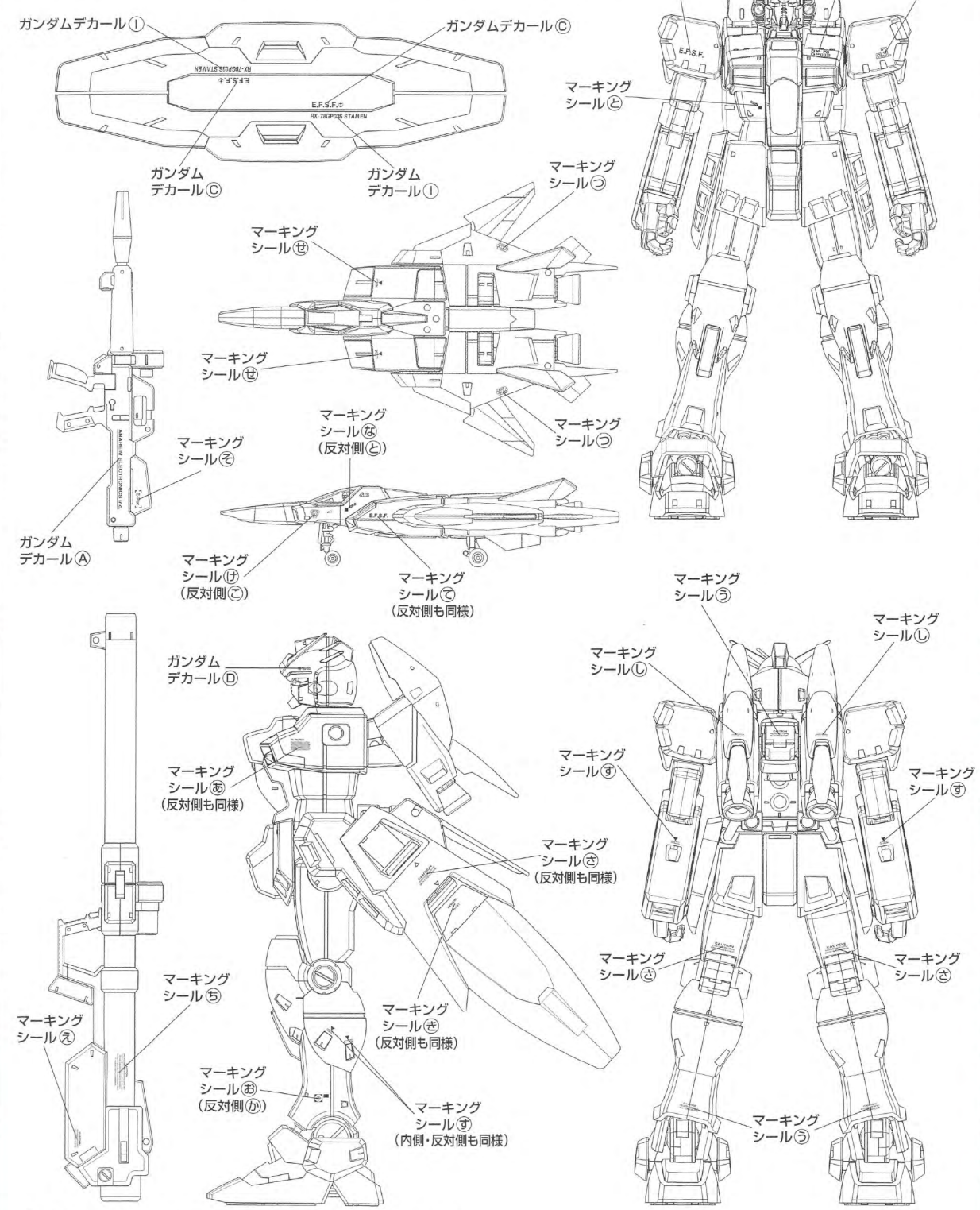
※H17はお好みの場所に飾ってください。



Parts name of RX-78GP03S STAMEN	Parts List	Head Unit	Arm & Leg Unit	Body Unit	Core Fighter & Weapons	Final Assemble
---------------------------------	------------	-----------	----------------	-----------	------------------------	----------------

Seal 下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。
 <シール>

- ガンダムデカールのはりかた。
 1. 転写するマークをだまかに切り取ります。
 2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
 3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。